

富士通テングループ／社会・環境報告書

2014 Sustainability Report



# 2014 Sustainability Report

## 編集方針

### 目的

本報告書は、社会・経済・環境の3つの側面に関する富士通テングループの考え方や取り組みについて、2013年度の成果や特徴的な取り組みを中心に記述し、企業情報の開示を積極的に行うことで、広く社会の皆様とのコミュニケーションを図ることを目的としています。

また、富士通テングループについて、より深くご理解いただくため、企業理念である「社会への責任・貢献」「お客様第一 品質至上」「働きがい」に沿ったページ構成としています。なお、環境に関する詳細データについては「環境データ集」としてWebサイトに掲載しています。

### 配布対象

お客様、お取引先、従業員、株主、地域社会、行政など、あらゆるステークホルダーの皆様を対象としています。

### 参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」  
 環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」  
 GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン(第3版,第4版)」

### 関連公表資料

会社案内(CORPORATE PROFILE)

### コミュニケーション

本報告書は、皆様と富士通テングループとの重要なコミュニケーションツールと考えています。Webサイトのアンケートから、ぜひご意見をお聞かせください。

### 報告範囲

2013年4月1日～2014年3月31日における、富士通テンと富士通テングループ各社のうち、次に示す拠点を除いた合計23社のデータを報告範囲としています。また一部に、特定の範囲あるいは拠点のみを取り上げたデータや事例も報告しています。

以下の拠点は報告範囲に含まれていません。

- FUJITSU TEN MINDA INDIA PVT. LTD.
- MINDA F-TEN PVT. LTD.
- PT.FUJITSU TEN MANUFACTURING INDONESIA
- PT. FUJITSU TEN AVE INDONESIA
- 富士通天(中国)投資有限公司
- 富士通天(天津)精密電子有限公司
- TEN TECHNOSEPTA USA, INC.
- FUJITSU TEN DO BRASIL LTDA.

グループ全体におけるカバー率は、従業員数ベースで96%です。

### 将来に関する予測・予想・計画について

本報告書には、富士通テングループの過去と現在の事実だけではなく、将来に関する予測・予想・計画なども記載しています。これら予測・予想・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、これらには不確実性が含まれています。

したがって、将来の事業活動の結果や将来に惹起する事象が本冊子に記載した予測・予想・計画とは異なったものとなる恐れがありますが、富士通テングループは、このような事態への責任を負いません。読者の皆様には、以上をご承知いただくようお願い申し上げます。

# Contents

トップコミットメント	1
富士通テン10年ビジョン	2
事業概要	3
特集	4

## 社会への責任・貢献

地球環境のために	6
お取引先とともに	14
社会・地域とともに	15

## お客様第一 品質至上

## 富士通テンの社会的責任

## 働きがい

会社概要	25
富士通テングループのあゆみ	26
第三者意見とその回答	28



## ● トップコミットメント

# 「誠」を中心としたお客様と社会への貢献を通して、 持続可能な社会の実現をめざします。

富士通グループの社会的責任は、事業活動を通じて『人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、自由で快適なモビリティ社会の実現に貢献する』ことです。その活動を通じて私たちも持続的に成長したいと考えます。

今、クルマのICT化が加速しています。より高度にシステム化、モジュール化が進み、クラウドにつながったソフト・サービスを含めたシステムへと進化してきています。

その大きな潮流の中で、当社の強みを活かし、情報・通信技術を核とした「Vehicle-ICT」を中心に「快適・利便」「安心・安全」「環境」の3分野に取り組んでいます。

富士通グループをはじめ、幅広い分野と協業しながら、スピード感を持ってビジョンを具体化し、「クルマづくりで、お客様・パートナーから信頼される会社」、「Vehicle-ICTのリーディングカンパニー」をめざしてまいります。

私たちを取り巻く環境は、めまぐるしく変化していますが、そのような状況の中でも「変えてはならない」「守っていきたい」と思っていることがあります。それが、『誠は天の道なり』という社是です。「誠」の精神こそが、当社のCSR活動の源泉であり、今日まで成長し続けてこられた理由だと思っております。

「誠」の精神と、企業理念である「お客様第一 品質至上」「社会への責任・貢献」「働きがい」をベースに、さまざまな取り組みを積極的に進めてまいります。

### お客様第一 品質至上

品質確保が最重要課題であるとの認識のもと、品質ナンバーワンの製品をお客様に提供すべく、品質向上に向けた施策に取り組んでいきます。特に、ソフトウェアの比重が近年高まっており、ソフト品質評価のしくみ強化に取り組めます。

### 社会への責任・貢献

自動車関連企業にとって、地球規模での環境対策は重要課題です。私たちは従来から、クルマの軽量化・省資源化に寄与する超軽量スピーカーなどの技術開発や、照明のLED化などの事業所の環境対策にグローバルに取り組んできました。

昨年、富士通テンフィリピンが同国の経済区庁から環境活動を表彰されるなど、その活動は現地でも評価されています。

今後も、地球温暖化や生物多様性の問題などの課題解決に向け、「環境中長期VISION」に基づき自らの環境負荷削減をめざすほか、ハイブリッド車・電気自動車用制御ユニットなどの環境貢献製品の開発を通じて「人にも、環境にもやさしいクルマ社会づくり」に貢献します。

### 働きがい

「企業は人なり」。ビジョンを実現させるのは、やはり人財です。ダイバーシティを積極的に活かし、職場力を高めて個人の成長・やりがいの向上につなげることが、持続的な成長のキーになると思っています。また、意識やモラル、良識ある行動といった人としての基礎力も、高めていかねばなりません。

自分自身で考え、「何をやる」のか自ら答えを出し、それに対して責任のある行動をとれる人づくりや、会社の風土づくりに取り組みます。

私たちは、先人が大切に守ってきた「誠」という理念をしっかり引き継ぎ、「誠」を中心としたお客様と社会への貢献を通して、持続可能な社会の実現に努めてまいります。

また、私たちはステークホルダーの皆様と積極的なコミュニケーションを図りながら、ともに成長する企業でありたいと考えています。この報告書を通じて、私たちの活動に関心をお寄せいただき、忌憚ないご意見をお聞かせください。

富士通テン株式会社  
代表取締役社長

山中 明

# 「誠」を大切にして、お客様・社会との関係を構築

10年ビジョン(～2022年度)で示した「自由で快適なモビリティ社会」を実現するため、新事業領域への挑戦や市場・顧客の開拓に向けた取り組みを、グループ一丸となって進めています。

## 企業理念

私たちは、「誠」を大切にして働き  
お客様・社会に貢献します。

### お客様第一 品質至上

私たちは、お客様に役立つことを第一に考え、最高の品質で期待の先を行く商品を生み出します。

### 社会への責任・貢献

私たちは、社会の一員であることを自覚し、企業活動を通してその責任を果たし、貢献します。

### 働きがい

私たちは、一人一人が誇りを持って働き、能力を発揮し、達成の喜びを分かち合う「場」を実現します。



## 事業ビジョン

人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、  
自由で快適なモビリティ社会の  
実現に貢献します。

### 快適・利便

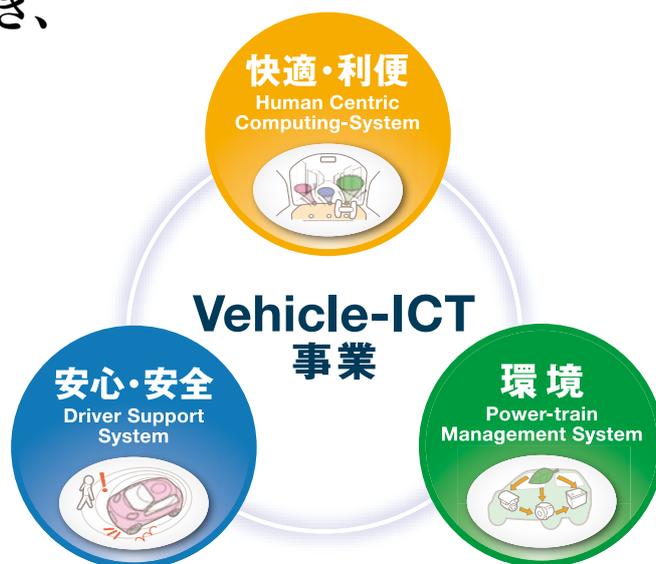
人にやさしい情報提供システム

### 安心・安全

社会のネットにクルマを組込む基盤システム

### 環境

地球を守るパワートレイン制御システム



新たなTENへ

# Try Evolution for the Next.

# 人とクルマのより良い関係をつくり、 社会との融和を図ります

私たちがめざすのは、自由で快適なモビリティ社会です。走るだけではないクルマの新しい楽しみを、誰もが安心できるカーライフを、環境にやさしいテクノロジーを…。富士通テングループは、お客様の期待の一步先を行く、「誠」のこもった製品を提供し続けてまいります。



\*1 ECU : Electronic Control Unit

\*2 自動車などの移動体に通信システムを組み合わせる情報サービスを提供する「テレマティクス」の機能を実現するために、GPS衛星、サービスセンターなどと通信を行う制御ユニット

# 「ツナガル」機能でクルマの新しい価値を創造

富士通テンは、「クルマと社会をつなぐ」「クルマと人をつなぐ」「クルマとクルマ、クルマとインフラをつなぐ」という三つの分野の「ツナガル」機能で、クルマの新しい価値を創造し、クルマ社会のイノベーションを進めます。

## クルマと社会をつなぐ

### IP無線タクシー配車システム P.5

## IP無線タクシー配車システムの提供により、タクシー無線のデジタル化をサポート

電話すれば、すぐに迎えに来てくれ、目的地へ連れていってくれる。このようなタクシーの利便性を実現するために、多くのタクシー会社では、配車センターとタクシー車両を相互につなぐ、無線のシステムを導入・運用しています。富士通テンは、デジタル無線による配車システムに加えて、広域運用が可能な携帯電話網によるIP無線の配車システムを提供し、タクシー会社のさまざまなニーズに沿った配車システムの構築・運用を支援しています。

### アナログ無線の廃止に備えて

タクシー会社では、配車センターがタクシー車両の位置・状態を把握し、最適車両への配車を行っています。そのため、配車センターとタクシー車両との間で、「迎車地[乗客の氏名]」「タクシー車両の位置・状態」の情報をやりとりする必要があり、その通信には、これまでアナログあるいはデジタル無線が利用されてきました。

国内のタクシー無線においては、2016年5月末にアナログ無線が廃止され、デジタル無線への完全移行が決定され

ています。<sup>\*1</sup>タクシー業界では全車両のうち、すでに約6割にあたる約12万台のデジタル化が完了<sup>\*2</sup>していますが、デジタル化を契機に、事業エリアの拡大に伴う通信エリアの確保が求められています。

このような状況の中、富士通テンは2013年7月、通信手段として携帯電話網を利用する、IP無線タクシー配車システム（以下「IP無線システム」と略）の販売を開始しました。

\*1 2003年総務省、電波法関係審査基準の一部改正の訓令による  
\*2 2014年4月現在、当社調べ

### 基地局なしにシステム構築が可能なIP無線

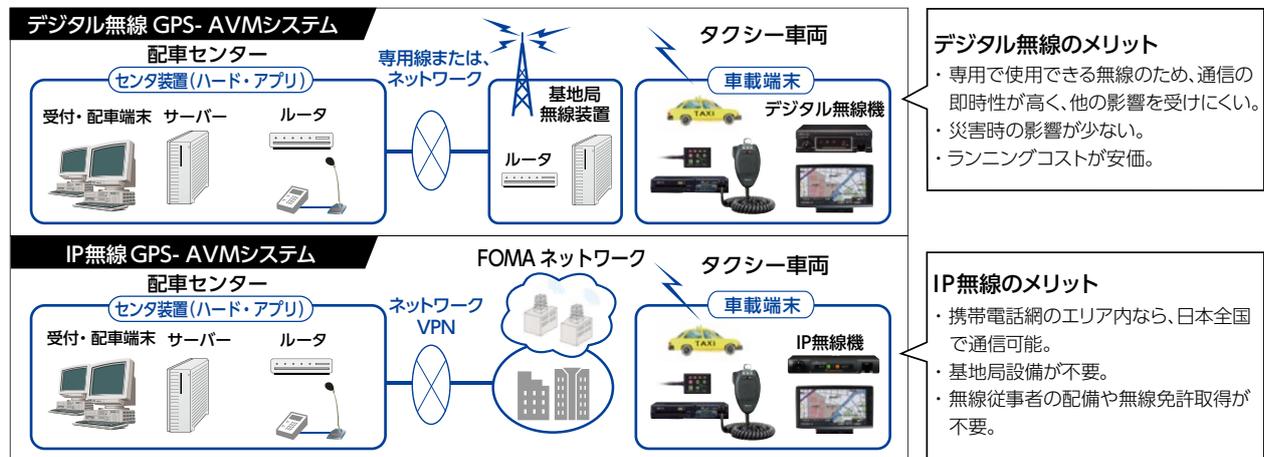
IP無線システムは、携帯電話網を利用するため、「山間部や、都市部のビル間など、従来、無線の電波が届きにくかったエリアでも通信感度が高い」といった長所もあります。このようなIP無線システムの特徴に着目するタクシー会社は多

く、当社にも多くのお問い合わせをいただいています。

当社はこれからも、タクシー会社のさまざまなニーズにお応えし、デジタル無線、IP無線の双方において、信頼性の高い機器・システムをお届けしていきます。

**WEB** タクシー配車システム

#### ■ タクシー配車システムの比較



※車載端末は、ナビゲーションシステムを含む構成です。

## 音声対話型エージェント「CarafL」

### 会話するように、カーナビの目的地検索が可能に

2013年11月、富士通テンは「ECLIPSE」のカーナビゲーションシステム「AVN」\*1のアプリケーションとして、「CarafL」（カラフル）の提供を開始しました。

「CarafL」は、インストールしたスマートフォン\*2とカーナビをWi-Fi®でつないで話しかけると、施設や空いている駐車場などを検索して結果を音声で知らせてくれ、目的地に設定することが可能な、対話型のエージェント・アプリです。

複数の言葉が含まれる発話や、定型の単語を使わない話し言葉でも、意味を理解して検索を行うことができます。検索の結果に新たな条件を追加して、話しかけて対象を絞り込むなど、普段の会話をするような感覚で操作することができます。

\* 1 AVN のZシリーズに対応

\* 2 アンドロイド搭載スマートフォン、iPhoneに対応

「CarafL」の利用によって、カーナビの操作がより簡単になるとともに、声による操作でドライバーの視線の移動が減り、安全運転にも寄与するものと考えられます。



ULTRA AVN「AVN-ZX03」(右)と「CarafL」をインストールしたスマートフォン画面

## テレマティクスユニット

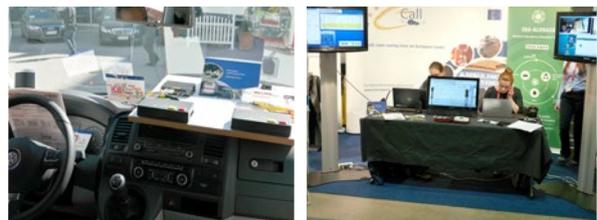
### 緊急通報システムの実証実験に成功

欧州、ロシアでは、自動車事故への即応などのために、事故発生時に携帯電話網を利用して、クルマが自動的に、車両の位置・車種などの情報を公共の緊急通報センターへ通報する、緊急通報システムの導入が計画されています。このシステムは、欧州では「eCall」、ロシアでは「ERA-GLONASS」と呼ばれています。

当社は緊急通報対応仕様のテレマティクスユニットを開発し、2013年から実地検証プロジェクトに参加しています。2014年6月には、ヘルシンキ(フィンランド)とロシア国内で実施された実証実験\*で、同ユニットを提供。この実験で、「eCall」、「ERA-GLONASS」の互換性が確認されました。

\*協力：GLONASS UNION、VTT、Gemalto、富士通テン

当社はこれからも、自動車メーカー、自動車部品メーカーとの協業を進めながら、緊急通報システムをはじめとする先進的なシステムを開発し、より安心・安全なクルマ社会の実現に貢献していきます。



デモ車両にセットした、テレマティクスユニット (左奥：eCall、右奥：ERA-GLONASS) 2014年6月の実証実験では、フィンランドとロシアでのデモンストレーションを同時に中継(写真はヘルシンキ会場)

## Voice お客様の声



山陽タクシー株式会社  
営業課長 塩岡 重明 氏

当社の営業エリアである神戸は山に面しており、タクシーが山間部を走ることも多く、無線が届かず、連絡が取りにくい場合があります。富士通テンのIP無線タクシー配車システムを導入したことで、車両と配車センターの通話が確実なものとなり、また、近くの空車を迅速にお客様に配車できるようにするなど、サービスの質が向上しました。

また、サービスエリアが拡大しました。

富士通テンの良いところは、システムの信頼性が高く機能がすぐれているだけでなく、保守・メンテナンスが良い点ですね。何かあった時には連絡したらすぐに対応してもらえるので助かります。担当者が皆さん明るく接しやすいのも良いですね。

# 人とクルマと環境のより良い関係を築く

「自由で快適なモビリティ社会」の実現も、私たちが事業活動を継続できるのも、美しい地球があってこそです。富士通テングループは、自動車に携わるICT企業として、人とクルマと環境のより良い関係を築き、社会に貢献するための取り組みを強化しています。

## TOPICS

### スーパーグリーン製品を 2製品\*1認定

富士通テングループでは、製品環境アセスメントの結果、一定基準をクリアした上で、さらに顕著な改善を実施した製品を「グリーン製品」、グリーン製品の中で環境配慮のレベルが自社あるいは他社の製品と比較してトップグループレベルにあるものを「スーパーグリーン製品」とする基準を整備し、エコデザインを推進しています。

自動車の燃費には車体重量が大きく影響するため、車載製品においても小型・軽量化が重要な環境テーマとなっています。そこで当社グループでは、2013年度に、大幅な小型・軽量化を達成した自動車メーカー向けの2製品「超軽量スピーカー」「1.4DIN\*2 AVN」をスーパーグリーン製品として認定しました。

\*1 AVNは、機種個別での認定ではなく、「1.4DIN製品群」として認定。

#### ■ 超軽量スピーカー Voice

##### ここがエコ

- ・従来製品比29%減の軽量化を実現
- ・車載用16cmスピーカーとしては、世界最軽量を実現(2013年10月当社調べ)

##### Point

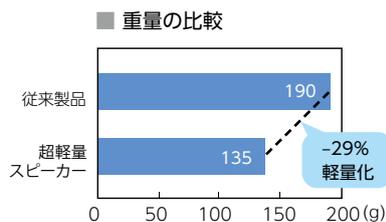
構成部品全体の約45%の重量を占める  
スピーカーフレームに着目

- ・肉厚を極限まで薄肉化
- ・形状・配置を工夫し従来品と同等の強度を確保

磁気回路の小型化・最適化により音質を維持



超軽量スピーカー



#### ■ 1.4DIN\*2 AVN

##### ここがエコ

- ・質量は従来製品比39%減、3.93kgから2.40kgへの軽量化を実現

##### Point

- ・オーディオ/ナビユニットを統合し、回路を最適に配置
- ・放熱構造を最適化・小型化



従来のサイズ  
(2DIN\*2)

\*2 DIN：ドイツ工業規格(DIN)に基づく、車載オーディオ機器の操作パネルの外寸規格。「1DIN(横幅180mm、高さ50mm)」と「2DIN(横180mm、高さ100mm)」の2種類がある。

#### Voice 従業員の声



CI技術本部  
技術三部 平本 光浩

超軽量スピーカーは、ある自動車メーカー様が展開する、部品質量を低減する活動へのご提案がきっかけとなって、開発がスタートしました。

ご提案した当初は、「軽くすることで性能も劣化するのではないか?」との懸念を持たれまし

たが、顧客との試聴会やデザインレビューなどでその懸念をひとつずつ払拭することで、量産に結びつけることができました。

今後は、この軽量化技術を他のスピーカーにも展開し、より多くの車種に採用されるよう、引き続き努力していきたいと思っております。

## 富士通テン フィリピン (FTCP) がフィリピン経済区庁 (PEZA) より "Outstanding Environmental Performer Award" を初受賞

Voice

富士通テングループは、グローバルに統合されたマネジメントシステムを通じ温暖化対策などの共通目標を掲げ、グローバルに取り組みを推進しています。

2013年4月、FTCPIは、フィリピン経済区庁 (PEZA) から環境への取り組みを評価いただき、"Outstanding Environmental Performer Award" を初めて受賞しました。

同賞は、フィリピン政府が各業界と協力して行う環境保護活動において、優秀なパフォーマンスを収めた企業を表彰する、非常に名誉ある賞です。今回は40社中、FTCPを含む5社が受賞しました。



授賞式の様子

受賞トロフィー

### 評価 Point

- ・ 省エネルギーに関する効果的なプログラム、資源の有効利用、および効果的な汚染防止・廃棄物管理
- ・ 植樹、給水設備の供給、および小学生への一連の環境・安全教育などの持続可能なプロジェクトを公立学校に適用することによる、社会に対する顕著な貢献

### 特に評価された成果

1. エネルギー使用量原単位 20%削減 (CO<sub>2</sub>は23%削減)
2. 廃棄物発生量原単位 21%削減
3. 用紙使用量原単位 58%削減
4. 化学物質使用量原単位 48%削減
5. そのほか、CSRに関連する貢献活動

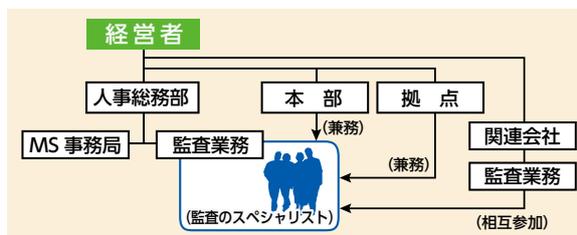
このほか、2013年度中に海外において、社外から評価を受けた実績として、2013年5月、富士通天電子 (無錫) が無錫市から環境保全活動を評価され、最上位ランクにあたる「緑色等級企業」に認定された事例があげられます。

## 環境・安全分野の内部監査組織を再編 ~少数精鋭による部署編成により監査機能を強化~

2013年11月、環境・安全分野の内部監査機能を強化するため、内部監査組織の再編を行いました。

### 再編の Point

- ・ 職制組織として、監査者に正式なミッションを与える。
- ・ 現場に密着した監査を実施するため、各本部より監査者を選出し、原則として監査組織との兼務とする。
- ・ 監査者を少数に絞り、教育プログラムの充実と経験の蓄積によって、監査能力の向上を図る。



このような組織の再編によって、監査の際の不備項目の是正・改善はもちろん、経営層に対して企業経営の改善につながる提案を可能とする、強い監査組織をめざします。

### Voice 従業員の声



富士通テン フィリピン  
人事総務部 Ronald Teves

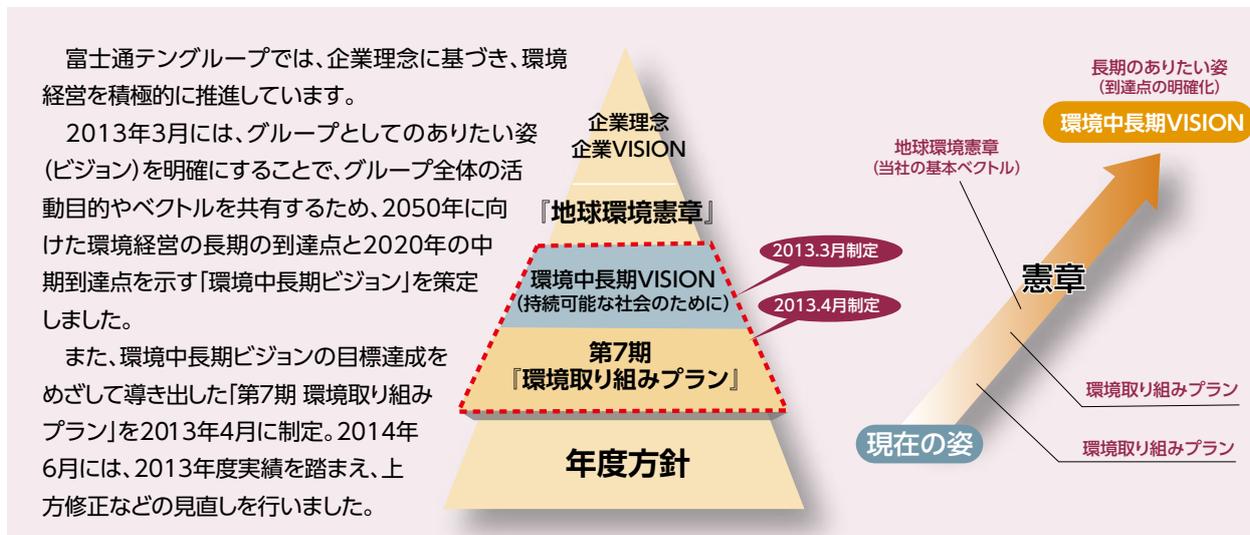
「フィリピンの多国籍企業の中で、当社の環境マネジメントがどの位のレベルなのか」ということを確かめるために、私たちは、PEZAの "Outstanding Environmental Performer Award" への取り組みをスタートさせました。今回の受賞によって、当社全員で取り組んでいる環境プログラムが、実りのある効果的な成果を生み出していることを確認することができました。

当社にとって、この受賞が喜ばしいのはもちろんのことですが、「環境保全を通じた社会貢献」を実感できたことは、私自身にとっても大きなやりがいにつながっています。

今回の受賞をさらなる励みとして、今後、私たちがさらに一丸となり、ISO14001/OHSAS18001の複合システムを通じて、環境保全活動を推進していきたいと思えます。

# 富士通テングループの環境経営

地球規模での環境保全の必要性を深く認識し、企業活動および製品のライフサイクルすべての領域に対し、環境負荷の低減に努めます。



## 企業理念

私たちは、社会の一員であることを自覚し、企業活動を通してその責任を果たし、貢献します。

## 富士通テングループ地球環境憲章 WEB 地球環境憲章

### ■ 基本理念

富士通テングループは、環境と経済の両立が経営の重要課題と認識し、Automotive Electronics, Entertainment, Information and Communication Technology分野で培ったテクノロジーと創造力を活かし、人とクルマと環境のより良い関係づくりを推進します。

さらに、低炭素社会の実現と社会の持続可能な発展に寄与し、緑豊かな21世紀社会の実現に貢献します。

### ■ 基本方針

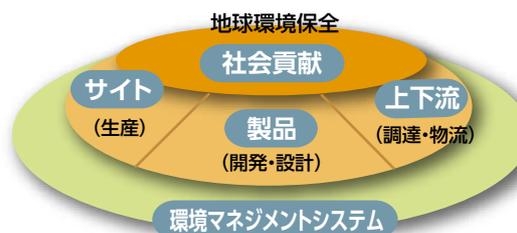
1. グローバル企業としての責任遂行
2. 基本の徹底と自主的な取り組み
3. 社会との連携・協力

### ■ 行動指針

1. ライフサイクルの各過程において、環境負荷の低減に努めます
2. 環境マネジメントシステムを継続的に改善、環境教育・啓発活動を充実して、環境経営の基盤強化に努めます
3. 生物多様性保全の活動を含めた地域・社会への環境貢献活動を推進します

## 環境活動コンセプト

地球環境憲章に掲げた行動指針の実行にあたっては、その活動を右の5つのカテゴリに分類。カテゴリごとに目標を設定し、環境中長期ビジョン、環境取り組みプランで到達点を明確にして取り組んでいます。



## 富士通テングループ環境中長期ビジョン

WEB 環境中長期ビジョン

富士通グループの環境ビジョンである「Green Policy 2020」に軸をおき、「お客様・社会への貢献」「自らの変革」「生物多様性へのコミット」の3つに目標を定めています。

### ■ 基本理念

私たちは、2050年までの温室効果ガス排出量の半減\*1が社会の至上命題と認識し、その達成に向け、自らの環境負荷の削減とともに、環境貢献製品\*2の開発と環境配慮型製品の開発により、自らができることに最善を尽くし、お客様・社会と協力し、持続可能な社会の実現に貢献します。

### ■ 私たちのミッション

人とクルマと環境のより良い関係づくりで社会に貢献します。

### ■ 環境長期VISION2050

数値目標	自らの温室効果ガス排出量を2011年度比で50%以上削減します
定性目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境貢献製品と省エネ製品の開発による社会の温室効果ガス排出量半減への貢献</li> <li>生物多様性保全への貢献</li> <li>資源循環型社会への貢献</li> <li>社会が直面する重要環境課題に果敢に挑戦</li> </ul>

### ■ 環境中期VISION2022

数値目標	グローバルでの温室効果ガス排出量をピークアウトし、国内の排出量を2011年度比で20%削減します
定性目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境貢献製品の開発を推進</li> <li>全製品群でLCA*3に基づく環境配慮設計を推進し自社の製品の環境負荷を削減</li> <li>Scope3*4に基づく温室効果ガスの影響範囲を把握し、バリューチェーンを含めた温暖化対策目標を設定</li> <li>事業活動に伴う生物多様性保全の影響を評価し、改善計画を作成</li> <li>資源循環に関する取り組みを推進</li> </ul>

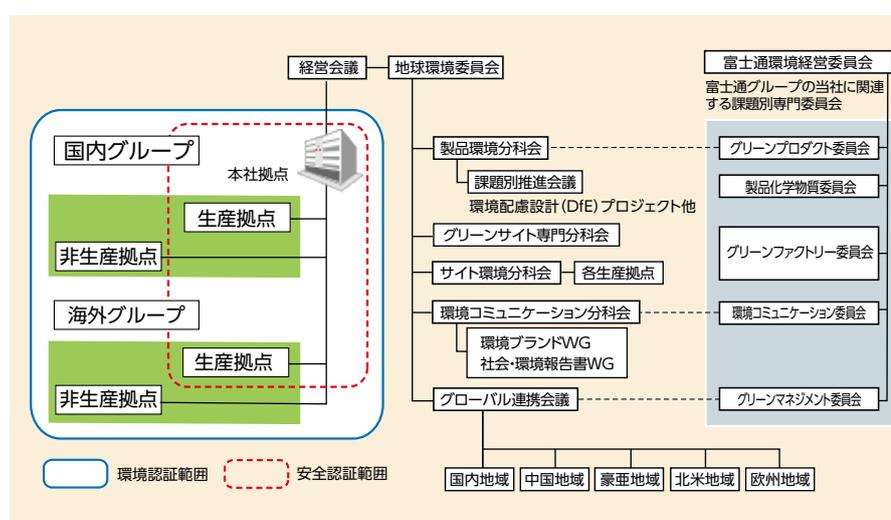


\*1 2011年度比  
 \*2 環境貢献製品とは、その製品を使用することで、他の製品・システムにおける環境負荷の削減に貢献できる製品のことで、当社の場合はハイブリッド車用ECUや電気自動車用ECUのほか、エンジン制御ECUなど自動車の省エネ・クリーンエネルギーに寄与する製品をいう。  
 \*3 LCA（Life Cycle Assessment）：原材料の採取から各製品の製造・流通・使用・廃棄に至るまで、全てのライフサイクルの各段階における環境負荷を定量的に評価する手法  
 \*4 Scope3：WBCSD（World Business Council for Sustainable Development：持続可能な開発のための世界経済人会議）が提唱した新たな温暖化対策の把握・評価の枠組み。自社だけでなくバリューチェーンを通じた上流・下流での自社の温暖化寄与分を明確にし、これを新たな把握・公開・削減の対象とする。

## 環境活動推進体制

富士通テングループでは、環境問題にグローバルに取り組むための体制を整備する中、2009年8月にはISO14001グローバル統合認証を取得。従業員10名以上のグループ全拠点\*5で環境活動を推進しています。

また、このグローバル統合認証と、安全衛生マネジメントシステムの国際規格であるOHSAS18001の認証との複合化を推進し、2012年には世界トップクラスの早さでグローバル複合認証\*6を取得しました。これらの統合された枠組みを活かし、あらゆる領域で環境活動を推進できる体制を確立しています。



\*5 富士通と国内連結子会社7社、および海外連結子会社15社の計23社47拠点。新規に設立・子会社化する拠点は2年以内に適用範囲に追加する方針です。なお、本社拠点の一部は富士通グループの統合認証範囲に含まれています。  
 \*6 本社拠点、富士通テンマニュファクチャリング 中津川工場・小山工場、天津富士通天、FTEW、FTCP、FTTL、FTDMの8拠点



# 「第7期 環境取り組みプラン」を推進

環境中長期ビジョンの達成を目標として、そこから導き出した3か年ごとの活動計画を環境取り組みプランとして設定し、取り組みを進めています。

## 第7期 環境取り組みプランの目標と実績

2013年4月、2015年度までの3か年を活動期間とする、第7期 環境取り組みプランを策定しました。

2014年7月には目標の一部を見直して、国内と海外に分かれていた目標を、国内外に展開する富士通グループのグローバル目標に統一、今後はグローバルでの環境負荷削減へのコミットメントを追求してまいります。

### ■ 第7期 環境取り組みプランの見直し内容

#### 1. グリーンサイト(生産)分野の取り組み目標をグローバル目標に統一

CO<sub>2</sub>や廃棄物など、一部の目標において国内と海外に分けて設定していた目標値について、グローバル企業としての環境への取り組み姿勢を明確にし、グローバル全体で環境負荷削減をめざせるよう、国内CO<sub>2</sub>を除く\*1グリーンサイト(生産)分野の取り組み目標をグローバル目標に統一変更しました。

#### 2. 2013年度実績を踏まえ、より厳しい目標に上方修正

CO<sub>2</sub>および水資源\*2 について15年度の当初到達目標を前倒しで達成した項目について、さらなる環境負荷削減に向けた取り組みを加速させるため、目標値の上方修正を行いました。

### ■ 2013年度の達成状況と2014年度の目標

2014年7月に見直した目標 評価=○:達成 △:一部未達成

分野	取り組み目標	2013年度目標	2013年度実績	評価	2014年度目標
グリーンサイト(生産)	CO <sub>2</sub> 排出量(絶対量)を2015年度末までに2011年度比で16.7%削減する。(国内)	2011年度比-11.8%	2011年度比-14.7%	○	2011年度比-15.7%
	CO <sub>2</sub> 排出量(生産高当り)を2015年度末までに2011年度比で13.8%削減する。(グローバル)	2011年度比-7.7%*3	2011年度比-12.9%	○	2011年度比-13.4%
	廃棄物排出量(生産高当り)を2015年度末までに2011年度比で17.2%削減する。(グローバル)	2011年度比-10.8%*3	2011年度比-11.0%	○	2011年度比-14.6%
	化学物質使用量(生産高当り)を2015年度末までに2011年度比で12.2%削減する。(グローバル)	2011年度比-11.6%*3	2011年度比-11.6%	○	2011年度比-11.9%
	水資源使用量(従業員数当り)を2015年度末までに2011年度比で12.7%削減する。(グローバル)	2011年度比-2%	2011年度比-12.4%	○	2011年度比-12.3%
グリーン調達・グリーン物流	Scope3に基づく評価手法を構築し、2015年度末までに評価を実施する。(国内)*4	評価ルール作り・試行	評価ルール作り・試行	○	データ取得(評価)開示
	輸送における売上高当りのCO <sub>2</sub> 排出量を2015年度末までに2011年度比4%以上削減する。	2011年度比-3%	2011年度比-3.3%	○	2011年度比-4.0%
グリーンプロダクツ	スーパーグリーン製品を2015年度末までに3製品開発する。	2製品開発	2製品開発	○	2製品開発
	車両電動化の動きの中、自動車会社に向けた環境貢献技術の提案件数を2012年度比150%に上げる。	2012年度比150%	2012年度比210%	○	2012年度比150%
マネジメントシステム	2012年度に構築したISO14001/OHSAS18001*5のグローバル複合システムの適用範囲を拡大する。*6	富士通テクノセブタへ範囲拡大	FTESA、富士通テクノセブタへ適用拡大	○	富士通テクノセブタ認証参加
	2015年度末までにISO50001*7に基づくエネルギーマネジメントシステムの要素を既に構築しているISO14001/OHSAS18001の複合マネジメントシステムに取り入れ、省エネ推進のしくみを充実する。 ※ISO50001は認証対象外	ISO50001の要素を取り込み本社拠点で試行	ISO50001の要素を取り込み本社拠点で試行	○	機器購入時の省エネ比較制度の開始(国内展開)
	持続可能性・パフォーマンス改善を視野に入れた環境経営度評価基準を設定し、グループ企業の評価指標を向上する。	評価基準の設定、評価実施	評価基準の設定、評価実施	△	評価実施目標設定
社会貢献	社員が社会とともに取り組む社会貢献活動を推進する。	1件以上/拠点	1件以上/拠点	○	1件以上/拠点
	生物多様性などの社会・環境課題の解決に取り組む活動に対し、資金、技術、人材などを支援する。	生物多様性保全活動1件以上/拠点	1件以上/拠点	○	生物多様性保全活動1件以上/拠点

\*1 CO<sub>2</sub>は洞爺湖サミットなど先進国日本として削減課題があるため、国内目標は継続して掲げ絶対量の削減を追求していきます。

\*2 水資源は従来、社内目標として掲げていましたが、社会での水資源への関心の高まりを考慮し公開目標へ変更しました。

\*3 国内と海外などに分かれていた当初目標を、今回見直したグローバル原単位に置き換えた場合の当初計画値

\*4 対象範囲は、P.11「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量」をご確認ください。

\*5 OHSAS18001:Occupational Health and Safety Assessment Series(労働安全衛生アセスメントシリーズ)国際コンソーシアムによって策定された、労働安全衛生に関するマネジメントシステム規格。ISO14001のように審査登録制度が適用される。

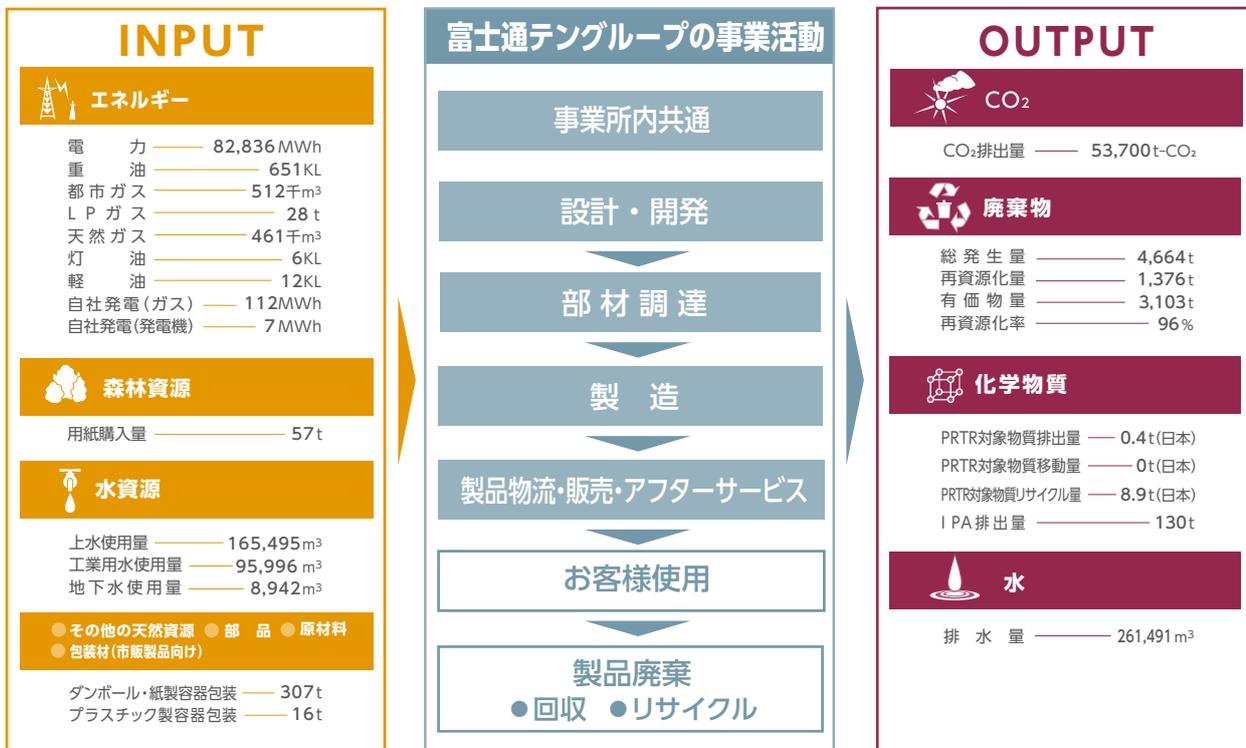
\*6 ISO14001は10名以上の拠点を対象とするグローバル統合認証。新規拠点設立時は2年以内に統合認証に参画。OHSAS18001は海外含む生産拠点で統合認証を順次取得する。その他非生産拠点ではリスクアセスメントの導入と基礎安全活動を徹底。

\*7 ISO50001:エネルギー効率およびエネルギーパフォーマンスの改善を意図するマネジメントシステム規格。既にISO14001があるが各国のエネルギー事情や地球温暖化などを背景にエネルギーマネジメントに特化した規格として2011年に新設された。

# 事業活動と環境側面

富士通テングループの製品および事業活動は、さまざまな形で環境に負荷を与えています。私たちは、これからもグループ一体となった環境経営を進め、あらゆる段階で環境負荷低減を図ります。

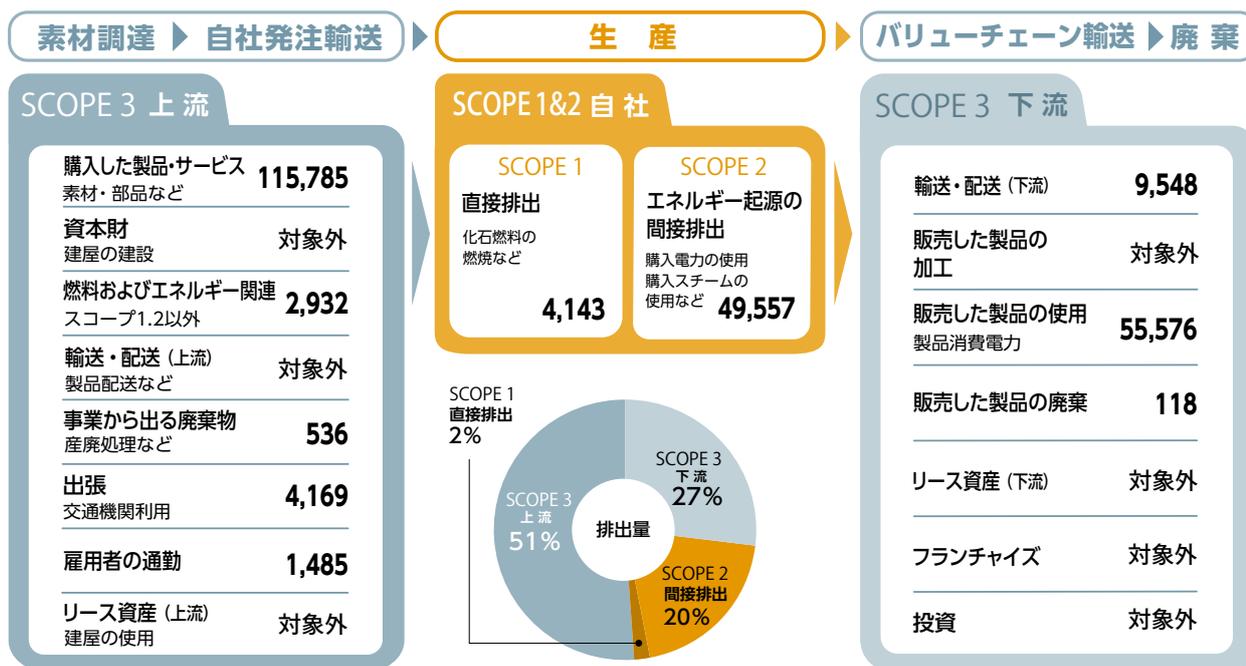
## ■ 事業活動に伴う環境側面



## ■ サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量

富士通テングループでは、サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量について、2013年度からGHGプロトコル\*の基準に準拠して算出を開始しました。2013年度のサプライチェーン全体での温室効果ガス排出量は243,850tでした。

\* GHGプロトコル: GHG (Greenhouse Gas: 温室効果ガス) 排出量の算定と報告に関する国際的なガイドライン





### ■ 地球温暖化対策

地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>排出量を削減するため、省エネ設備の導入やオフィスにおける省エネ活動のほか、生産の効率化や業務の効率化に取り組んでいます。

#### 2013年度の活動結果

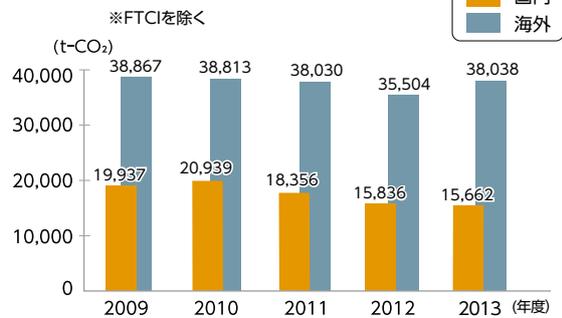
国内におけるエネルギー消費によるCO<sub>2</sub>排出量は、2011年度比-14.7%(15,662t-CO<sub>2</sub>)となり、「2011年度比で11.8%削減する」という目標を達成しました。

また、グローバルでのCO<sub>2</sub>排出量原単位は、2011年度比-12.9%(22.38t-CO<sub>2</sub>/億円)となり、「2011年度比で7.7%削減する」という目標を達成しました。

※CO<sub>2</sub>排出係数について

日本:富士通グループ統一係数を使用 海外:国別電力排出係数(日本電機工業会)

#### ■ CO<sub>2</sub>排出量の推移(エネルギーのみ)



#### ■ 生産高当りのCO<sub>2</sub>排出量原単位の推移(グローバル/エネルギーのみ)



#### 取り組み事例

富士通テン/富士通テンマニュファクチャリング 中津川工場/  
富士通テン メキシコ/富士通天電子(無錫)

各拠点で照明のLED化を進めています。

2013年度は、4拠点で合計約4,400本の蛍光灯をLED化し、CO<sub>2</sub>排出量を年間約210t-CO<sub>2</sub>削減しました。



LED照明  
(富士通テンマニュファクチャリング 中津川工場)

※詳しい環境パフォーマンス報告については、「環境データ集」をご覧ください。

### ■ 廃棄物減量化対策

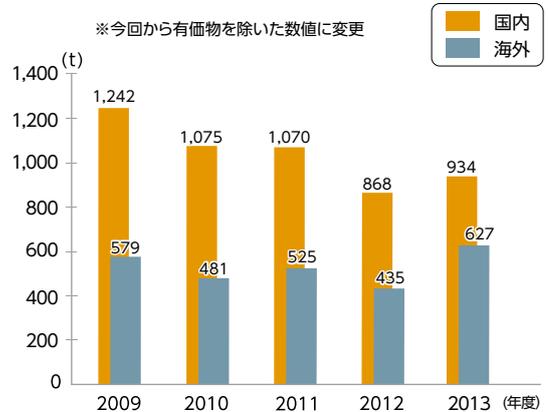
資源循環型社会を見据え、3R(Reduce:発生抑制、Reuse:再使用、Recycle:再利用)を基本に、廃棄物の減量化、ゼロエミッション\*に取り組んでいます。

\*富士通テングループの「ゼロエミッション」の定義:事業所から排出される廃棄物の発生抑制、再使用、再利用の3Rにより、単純焼却や埋め立て処分など有効利用されない廃棄物をゼロにする。

#### 2013年度の活動結果

グローバルでの廃棄物排出量原単位は、2011年度比-11.0%(0.65t/億円)となり、「2011年度比で10.8%削減する」という目標を達成しました。

#### ■ 廃棄物排出量の推移



#### ■ 生産高当りの廃棄物排出量原単位の推移(グローバル)



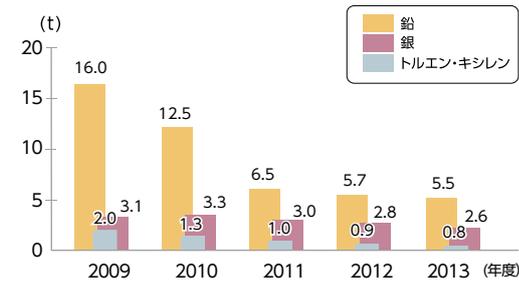
■ 有害物質削減対策

富士通グループでは、国内・海外の拠点で使用するすべての化学製品について、化学物質アセスメントを実施し、環境リスクの高い化学製品を特定して、その使用を低減する活動を行っています。

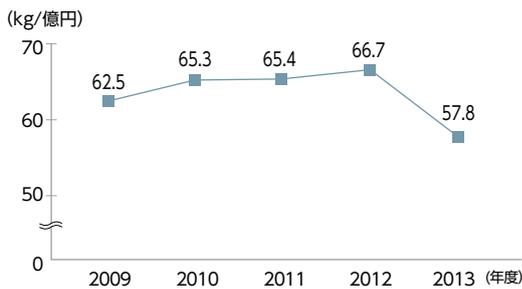
2013年度の活動結果

グローバルでの化学物質 (PRTR, VOC) 使用量原単位は、2011年度比-11.6% (57.8kg/億円) となり、「2011年度比で11.6%削減する」という目標を達成しました。

■ PRTR対象物質使用量の推移 (国内)



■ 生産高当りの化学物質使用量原単位の推移 (グローバル)



取り組み事例

富士通テン タイランド/富士通テン スペイン

はんだの再生装置を導入しました。はんだ屑を集めて再生・再使用することで、はんだの使用量を約24%削減しました。



はんだ再生装置 (富士通テン タイランド)

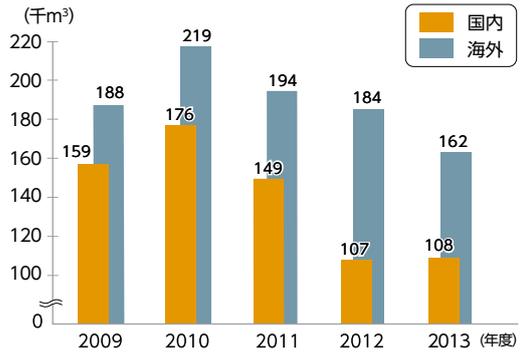
■ 水資源使用量削減対策

富士通グループでは、水は限りある資源であるとの認識のもと、工場・事業所で使用する生活用水 (手洗い・トイレ・社員食堂などで使用する水) の削減に努めています。

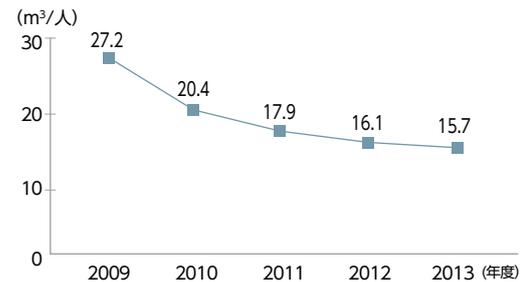
2013年度の活動結果

グローバルでの水資源使用量は、2011年度比-12.4% (15.7m<sup>3</sup>/人) となり、「2011年度比で2%削減する」という目標を達成しました。

■ 水資源使用量の推移



■ 従業員一人当りの水資源使用量原単位の推移 (グローバル)



取り組み事例

富士通天電子 (無錫)



クーリングタワーの冷却水が、循環時に外に漏れやすい構造になっていることがわかったため、冷却水の漏えいを防止するカバーを設置する改良を行いました。



※詳しい環境パフォーマンス報告については、「環境データ集」をご覧ください。

# お取引先とのパートナーシップ

お取引先と共存共栄の関係を構築し、サプライチェーン全体で、社会、地球への責任を果たすよう努めています。

## 仕入先協力会「天栄会」に 68社が参加



天栄会総会

1995年11月に発足した仕入先協力会「天栄会」には、お取引先68社\*と富士通テンが参加。会員各社と当社の双方に共通する「重要課題」をテーマとした分科会活動などを通じて積極的に研鑽を図っています。 \*2014年4月現在

### 調達方針

当社は、調達基本方針として「オープンで公平・公正な取引」「サプライヤーとの共存共栄」「CSRの推進」の3本柱を掲げています。調達方針の詳細は、仕入先総会などを通じて、お取引先に周知をお願いしています。

### 「CSR」「グリーン調達」の状況を調査

2006年からグリーン調達に関する「自主点検調査」を実施し、お取引先のグリーン調達への対応状況を確認するとともに、必要に応じてお取引先へのサポート策を展開しています。また、2013年4月から、主要なお取引先60社を対象に、CSRについて同様の調査も実施しています。

[WEB 仕入先 CSR ガイドライン](#) [WEB グリーン調達ガイドライン](#)

### 公平・公正な取引を徹底するために

お取引先からの提案をオープンに募り、複数の企業から平等な条件でお取引先を選定しています。また、調達部門の新人・異動者には関連法令に関する教育を実施しています。調達担当者は年1回のチェックを通じて調達スキルの向上を図り、一定期間で配置換えを実施しています。さらに、「ヘルプライン\*」(P.21)をお取引先にも開放し、お取引先から通報・相談があった場合、対応可能な体制を整えています。

\*2014年6月から「コンプライアンスライン」に改称

### サプライチェーンの事業継続

2011年に発生した「東日本大震災」などを契機に、大規模災害への備えを万全とするため、お取引先の緊急連絡網を作成するとともに、災害発生時の状況を把握できるよう、国内の4次取引先までの生産場所情報を一元的に管理するしくみを2012年度中に整備しました。さらに、2013年度から、海外のお取引先を対象に同様のしくみの整備を開始しました。

2014年度からは、国内のお取引先の情報を、クラウドを利用したシステムを含むものへ二重化する取り組みを進めています。

### お取引先とのコミュニケーション

当社は、お取引先ごとに、品質・コスト・納期・技術・環境保全の5項目における目標を毎年4月に設定し、その進捗を定期的に報告いただいています。年度末に開催する「仕入先総会」では、目標に対して優れた実績を達成したお取引先を表彰するとともに、当社グループの次年度の会社方針、技術開発方針および、調達方針をご説明しています。このほか、生産動向説明会を開催するなど、お取引先とのコミュニケーションをきめ細やかに行っています。

2014年3月に開催した仕入先総会では、約140社に出席いただき、延べ28社のお取引先を表彰しました。

### Voice 従業員の声



調達企画部 澤山 潤平

調達企画部の戦略企画グループで、国内外で最適な調達を実現するための方針や施策の立案業務を主に行っています。

世界8か国に展開する生産工場に対応したお取引先の増加に伴って、調達部門の担当領域も年々、拡大しています。自動車市場の環境も厳し

さを増しており、日々、難しい課題に直面していますが、さまざまな課題を解決していくためにも、企業理念である「誠」を常に心に留め、お取引先とのコミュニケーションをさらに深めたいと思います。

# より豊かな社会・地域づくりに向かって

社会の一員であることを自覚し、企業活動を通じてより豊かな社会・地域づくりに貢献します。  社会貢献活動

## 工作教室に延べ131名の 子どもたちが参加



2013年7月・8月・10月に、神戸・中津川・栃木の3地区で近隣の小学生を対象に「工作教室」を開催。従業員が講師・指導員となり、延べ131名の子どもたちと交流しながら、ソーラーカーづくりとゲームを楽しみました。

### 地域活動を重点分野として

国内では、多様な社会貢献活動の中でも、地元に着目した地域活動に重点をおいて取り組みました。

具体的には、「工作教室」の開催をはじめ、「兵庫運河祭」への模擬店出店や、「神戸マラソン」での給水ボランティアなどを行いました。



神戸マラソンでの給水ボランティア

### 社会福祉分野の活動

富士通テン社会貢献基金より、福祉施設・団体などへ楽器・音響機器をはじめとする寄贈を行い、音楽療法などに役立てていただいています。

#### ■ 2013年度に実施した楽器・音響機器などの寄贈例

事業所	取り組み
神戸本社	神戸市、名取市の社会福祉団体2団体へ、平太鼓、キーボード、ハンドベルなどを寄贈
豊田事業所	社会福祉団体へ、TV、ブルーレイレコーダー、DVDプレーヤーを寄贈
富士通テンマニュファクチャリング(株) 中津川工場	社会福祉協議会へ、ワイヤレスアンプ一式を寄贈

※各地域の社会福祉協議会を通じて実施

### 文化・スポーツ分野の活動

スポーツの分野では、女子バレーボール部が小・中・高校生、ママさんチームなどを対象とした「バレーボール教室」などを実施しています。

また音文化に関わる活動として、中・高・大学生が出演するコンサートやイベントへの協賛、軽音楽部によるチャリティーコンサートなどを行っています。



バレーボール教室

### 収集活動

誰でも気軽に参加できる活動として、従業員に広く参加を呼びかけ、次表のような収集活動を行っています。

#### ■ 2013年度に実施した収集活動の例

アイテム	寄附されたアイテムの用途
使用済み切手	国際協力NGOジョイセフを通じて、開発途上国の女性や子どもたちへのサポートに役立てられます。
ランドセル・学用品	国際協力NGOジョイセフを通じて、アフガニスタンの教育などに役立てられます。
楽器	特定非営利法人 JHP・学校を作る会を通じて、カンボジアの音楽教育などに役立てられます。
ヘルマーク	東日本大震災の被災地支援に役立てられます。
エコキャップ	NPO法人エコキャップ推進協会を通じて、子どもの命を救うポリオワクチンの購入に役立てられます。

### Voice 従業員の声



企画総括室 中村 祐輔

「ありがとう！」水を受け取ったランナーの方々からのお礼の言葉をかけてもらう度に、心地良い気持ちになります。

私が神戸マラソンの給水ボランティアに携わるのは、今年で2回目。2万人のランナーがとめどなく走り抜けていく中、私たちのいる給水ブースも予想以上の

忙しさに。ピーク時は給水が間に合わないほどでした。

給水活動をしながら、頑張っているランナーの方々に「頑張れ!」と応援していると、自然と自分自身も「頑張ろう」という前向きな気持ちになります。

このような気持ちを日々の仕事やプライベートに活かして、充実した日々を過ごしていこうと思います。

# お客様と「誠」の心で向き合う

お客様に役立つことを第一に考え、品質・安全性の向上に努め、期待の先を行く製品・サービスを生み出していきます。

## 品質への信頼の証 5年連続受賞



授賞式の様子

2014年3月、富士通テンのコスト競争力、品質などが高く評価され、ゼネラルモーターズ社より「2013年サプライヤー・オブ・ザ・イヤー」を受賞しました。

### TOPICS

## ドライブ情報のポータルサイト「ECLIPSE drive」が好評

2013年6月、富士通テンは皆様のドライブをより楽しいものにするために、“今すぐ出かけたくなる”ドライブ情報のポータルサイト「ECLIPSE drive」を開設しました。

このWEBサイトでは、地元精通した方々が旬なドライブスポットを紹介していく「地元の達人おすすめドライブスポット紹介」や、サイト訪問者のドライブにまつわるエピソードを募るTwitter 投稿キャンペーンなど、魅力的なコンテンツを公開。「ドライブ好きな人たちのエピソードが面白い」、「多くの人と情報を共有でき、参考にできるのがいい」など好評の声をいただいています。

これからも当社は、「ECLIPSE drive」をはじめ、Facebook、Twitter、メールマガジンといったオンラインツールを利用して、多くの皆様と交流していきます。

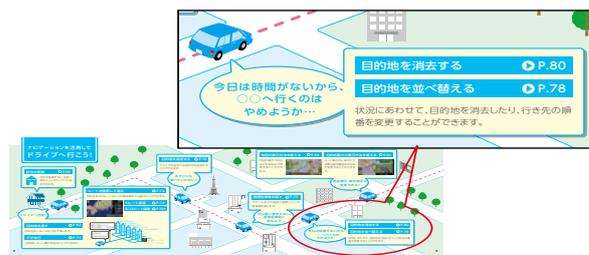


ECLIPSE drive

## お客様の声をヒントにした製品改善事例 P.17

市販商品については、富士通テン販売株式会社の商品室が中心となり、お客様相談窓口などへ寄せられたお客様の声を関連部門に伝え、製品・サービスの改善に役立てています。

2013年度は、カーナビゲーションシステム「ECLIPSE」に付属する取扱説明書において、冊子の内容を見直すとともに、製品の操作を手助けするスマートフォン用アプリケーション「どこでもサポート」をリリースしました。



お客様の声をヒントに、ドライブシーンを想定したページを設けるなど、冊子の内容も見直しを行いました。



「どこでもサポート」をスマートフォンにインストールし、WiFi でカーナビとつないで使いたい機能を選ぶと、カーナビの画面が自動で遷移し、操作を手助けします。

## お客様相談窓口の取り組み

お客様満足を高めるため、つながりやすく質の高い、迅速・的確・親身なコールセンターをめざし、日々、改善に取り組んでいます。2011年10月には、故障・修理相談グループを設置。IVR（音声自動応答装置）の導入により、相談内容に応じて適したオペレーターへつなぐことが可能になりました。

2013年度にお客様から寄せられた電話相談で最も多かったのは「操作」に関する内容で、全体の約3割を占めています。近年は、本体機能や操作へのご相談に加え、周辺機器やパソコン操作を伴うデータ更新作業などのご相談が増える傾向にあります。

また、お客様相談窓口では、お困りごとやご要望、製品へのお褒めの言葉や広告への反響なども含めて、お客様の声を社内へフィードバックする活動も行っています。



操作に関するご相談には、必要に応じて、オペレーターが機器の動作を確認しながら応答

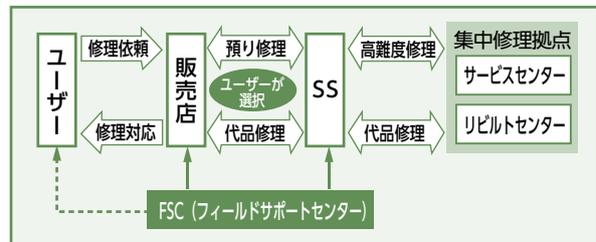
## カスタマーサービス体制

「早く・安く・確実な修理」をモットーに、国内においては、全国95拠点の認定サービスショップ（以下SS）が製品の修理にあたり、全国7か所のフィールドサポートセンター（以下FSC）が故障診断など技術面でSSをサポートしています。海外では現地法人10拠点、FSC14拠点、SS16拠点の体制を構築しており、地域に密着したサービスを提供しています。さらに、SSおよびFSCのサービス技術力に関する認定試験を毎年実施するなど、サービスレベルの維持・向上に努めています。

2013年8月にはインド、同年9月にはインドネシアにサービス拠点を設置し、運営を開始しました。

これからも国内外を問わず、地域に根づいたカスタマーサービスを展開していきます。

### ■ 国内カスタマーサービス体制（自動車メーカー向け）



## お客様の個人情報保護

当社グループは、「個人情報保護方針」に基づいて規定を整備し、個人情報を取り扱う部門単位に管理責任者を置き、従業員に周知徹底を図っています。

カーナビゲーション本体内部にお客様の個人情報が含まれることから、SSにも管理責任者の設置を義務づけています。

### Voice 従業員の声



カスタマーサービス部 藤原 みゆき

カスタマーサービス部の先行技術チームでは、お客様が迷わず製品機能を使いこなせるような「取扱情報」の提供をめざし、メンバー一丸となって、常にお客様目線で業務に取り組んでいます。

これからも、お客様相談窓口やフィールド

サポートセンターにいただいた、お客様からのお困りごとやご要望を真摯に受け止め、お客様により良く製品を使っていただけるよう努めてまいります。

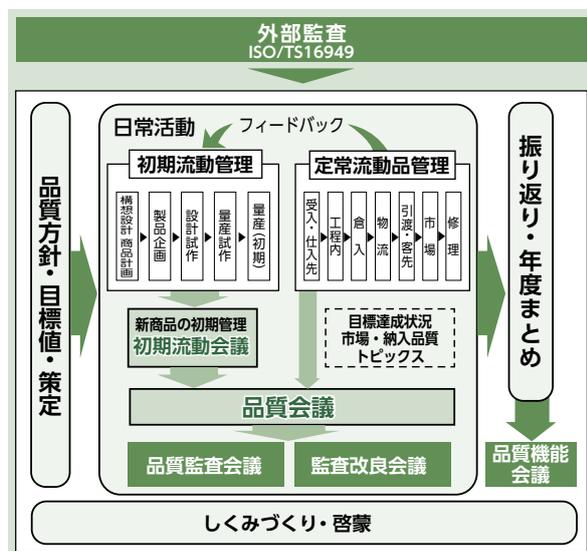
## 品質・製品安全の追求

お客様に信頼され、ご満足いただける商品をお届けするために、ISO/TS16949、ISO9001の国際品質マネジメント規格に基づく品質保証体制をグローバルに展開し、国内外の各拠点にて品質向上のためのサイクルを回しています。

また、このようなサイクルを回す中で、「富士通テングループ製品安全憲章\*」に基づき、製品企画から量産にいたる各段階で、品質および製品安全の確保を行っています。

\* 2014年4月、「富士通テングループ品質憲章」に改称

### 品質マネジメントシステム



日常の活動として、量産初期までの製品を対象とする「初期流動管理」、量産初期以降の製品を対象とする「定常流動品管理」を行います。また四半期ごとに、品質マネジメントのしくみも含めて振り返りを実施する「品質監査会議」を、品質担当役員を交えて開催しています。重要な品質問題が発生した場合には、随時「監査改良会議」を開催し対策を協議します。これらの一連のプロセスを、品質方針・目標にのっとり実施し、年度末の「品質機能会議」で当該年度の振り返りを行います。

## 品質意識の向上

ものづくりの品質や仕事の「質」に対する全従業員の意識の向上を狙いとして、毎年11月の品質月間に、グループ全社で多彩な活動を実施しています。

2013年11月の品質月間には、「全てはお客様のために」というテーマのもと、お客様を講師として招き、講演会を開催したほか、イントラネットによる品質情報特別サイトの開設、従業員による品質宣言、各生産拠点での事例展示会などを実施しました。イントラネットの品質情報サイトは各職場での認知を図り、品質月間中のアクセス数は、2012年度と比較して大幅に増加しました。

さらに、2013年9月に新設され、通常期には品質に関する常設展示を行っている「Q Catch Room」では、品質月間期間中に特別展示を開催。音声付きのスライドショー放映、品質問題に関して発生した具体的なコスト表示するパネルなどが「わかりやすい」と評価され、来訪者に実施したアンケートでは、有益度が5段階評価で4.2点と好評価を獲得しました。

今後も、「Q Catch Room」を活用するなど日常的な情報発信により、従業員の品質に対する意識の維持・向上を図っていきます。



品質月間中に特別展示を行った「Q Catch Room」

### Voice 従業員の声



品質保証本部 企画総括室 川北 友子

良い製品やサービスを生み出すためには、その土台として、従業員の品質管理に関する知識、意識、論理的思考能力が重要です。このような考え方のもと、品質保証本部では「品質管理検定」（QC検定）の取得を推奨しています。

品質管理検定は1～4級のレベルごとに、品

質管理の知識を客観的に評価する全国規模の検定です。お客様満足につながる品質向上に寄与すべく、今後もこの資格を持った人材を増やす取り組みを展開していきます。

# 社会・地域から信頼される企業をめざして

2002年4月、従業員のあるべき行動の姿を明文化した「富士通テングループ企業行動指針」を定め、2010年2月には、ステークホルダーの皆様に対して果たすべき責任と、CSRに関する富士通テングループのあるべき姿を宣言するものとして「富士通テングループ企業行動宣言(CSR方針)」を策定しました。これらを運用することで、ステークホルダーの皆様から信頼を得て、より良い関係づくりができるよう努めています。

## 富士通テングループ企業行動宣言(CSR方針)

私たち、富士通テンは、製品の提供を通じて人と車のより良い関係づくりに貢献し、国際社会・地域社会から信頼される企業をめざします。この目標を実現するため、私たちは、「誠」を大切に、「富士通テン企業理念」に基づくこの「富士通テングループ企業行動宣言」を実践してまいります。

### お客様

- 私たちは、お客様に役立つことを第一に考え、最高の品質で期待の先を行く製品やサービスを生み出します。
- 私たちは、安全に関する法令や規格を遵守することはもちろん、常に、お客様の立場で、製品やサービスの安全性および品質の向上に努めます。
- 私たちは、お客様の個人情報を、正当な方法により収集し、利用目的を明確にし、厳重に取り扱います。

### 従業員

- 私たちは、一人ひとりの人権を尊重し、人種、皮膚の色、宗教、信条、性別、社会的身分、門地、障がい、性的指向などによる不当な差別やセクシュアル・ハラスメントなどの人権侵害行為をしません。また、そのような行為を助長し許容しません。
- 私たちは、いかなる形であれ、強制労働や児童労働を行いません。
- 私たちは、一人ひとりが誇りを持って働き、能力を発揮し、達成の喜びを分かち合う「場」を実現します。
- 私たちは、全従業員に対し公正な労働条件を提供し、安全かつ健康的な労働環境の維持・向上に努めます。

### 取引先

- 私たちは、お客様およびサプライヤーなどの取引先を尊重し、長期的な視野に立って相互信頼に基づく共存共栄の実現に取り組みます。
- 私たちは、取引関係においては、オープンで公平な取引機会を提供するとともに、法令および契約を遵守し、公正な関係を維持します。

### 株主

- 私たちは、株主の利益のために、長期安定的な成長を通じ企業価値の向上を目指します。

### 環境

- 私たちは、地球規模での環境保全の必要性を深く認識し、関係法令を遵守することはもちろん、事業活動および製品の資材調達から製造・販売・使用・リサイクル・廃棄までのライフサイクルのすべての領域に対し環境負荷の低減に努めます。

### 社会

- 私たちは、財務報告、生命・身体の安全に関わる情報など、株主、消費者、地域社会等への企業情報の開示は、関係法令に従い、適法、適正かつ適切に行います。
- 私たちは、富士通テングループの事業活動に関わる、輸出関連法令等の国際ルールおよび各地域のルールを遵守するとともに、各地の慣習・文化にも配慮します。
- 私たちは、政府や国家の諸機関への贈賄や便宜の供与は行わず、また、政府や国家の諸機関と誠実かつ公正な関係を維持します。
- 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で臨むものとし、一切の関係を遮断します。

### 社会貢献

- 私たちは、社会の一員であることを自覚し、企業活動を通じてより豊かな社会・地域づくりに貢献します。特に、音に携わる企業として、音楽を通じた活動を積極的に推進します。

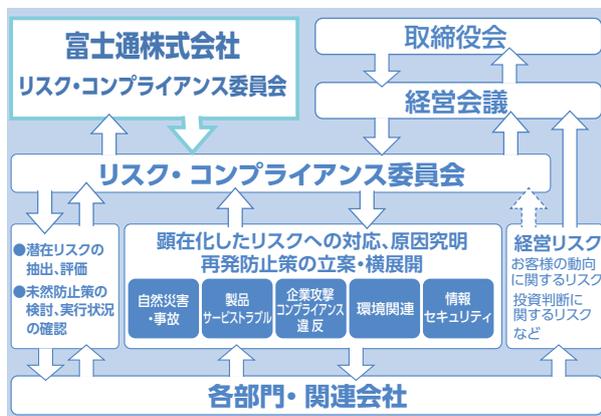
## コーポレート・ガバナンス

富士通テンは従来から、取締役会・監査役会による企業統治の体制をとってきましたが、2010年6月から執行役員制度を導入。監督と執行の機能を分離させ、それぞれの役割を明確化するとともに、取締役については、株主およびグループ全体の立場に立った経営監督機能に集中することとしました。これらによって、取締役会を構成する取締役の人数が制度導入前の17名から9名（2014年3月現在）となるなどスリム化が図られ、取締役会での議論の活発化や、意思決定のスピードアップを実現することができました。

## リスクマネジメント

当社の企業価値の向上はもちろん、富士通株式会社との連携によって、富士通グループ全体の企業価値にも寄与するために、コンプライアンス違反も含めたさまざまなリスクについて、未然防止および被害の最小化に向けたリスク管理体制を構築しています。「富士通テン株式会社内部統制システム（基本方針）」（2006年5月制定、2010年6月改定）に基づいて活動を展開し、リスク・コンプライアンス委員会が中心となって、潜在リスクの抽出や評価、未然防止策の検討、実行状況の確認などを推進しています。

### ■ リスクマネジメント体制



## 事業継続マネジメント Voice

2013年3月、当社グループをとりまく災害・事故のリスクに対する基本的な考え方や対応の基本方針を示した「事業継続計画」を立案しました。この計画には南海トラフ地震への対応が含まれているほか、東日本大震災（2011年3月）、タイ洪水（同年10月）をはじめ、さまざまなリスクへの対応を通じて蓄積されたノウハウが活かされています。また、より良い計画へとレベルアップを図るべく、事業継続計画は1年ごとに見直す方針です。

2013年度は事業継続計画に基づき、防災マニュアルの見直しや、災害・事故の発生直後の初動3時間にフォーカスした手順書を整備し、訓練による検証・見直しを行いました。また生産・調達の担当部門が主導し、初動対応後の生産再開に向けた復旧手順書の整備と検証・見直しのための訓練を実施しました。さらに本社地区にて、南海トラフ地震による地震・津波を想定した避難方法・避難場所の確認などを目的とした防災展示会を開催し、4日間で延べ1,200人の従業員が来場しました。

2014年度には2013年度の活動を踏まえ、初動対応・生産復旧のレベルアップを図るとともに、本社地区において、防災訓練、初動対応の検証訓練を行う予定です。



防災展示会

### Voice 従業員の声



人事 江川 雅裕  
総務部

2011年の東日本大震災を契機に、南海トラフ地震の想定が大幅に見直されたことに伴い、当社は、地震への取り組みを見直し、その内容に対する従業員の理解を促進するため、防災展示会を開催しました。

展示会では、南海トラフ地震の想定、備蓄品・

避難方法をはじめとする当社の対応、家庭での取り組みなどについて、パネル、映像、防災グッズを交えて、わかりやすく紹介しました。

この展示会に寄せられた意見を参考に、今後も防災訓練などを通じて、防災活動のレベルアップを図っていききたいと思います。

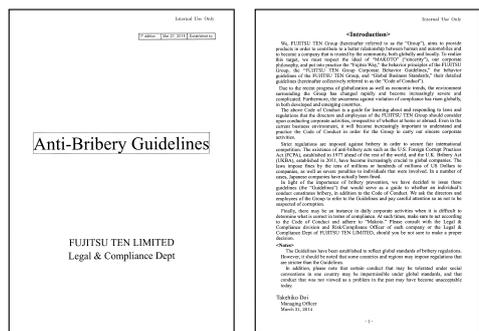
## コンプライアンス

富士通テングループは、事業活動に関わる法規制等を明確化するとともに、その遵守のために必要な社内ルール、教育プログラム、監視体制の整備を行い、グループ全体でコンプライアンスの推進に積極的に取り組んでいます。なお、反社会勢力に対しては毅然とした態度で臨むものとし、一切の関係を遮断することを基本方針としています。

富士通グループが進めるグローバルなコンプライアンス強化活動の一環として、2012年度から、当社グループの海外現地法人においてもコンプライアンス体制（グローバル・コンプライアンス・プログラム）の整備を進めています。具体的には、従業員のコンプライアンス規範「グローバル・ビジネス・スタンダード」(GBS: Global Business Standards)を展開し、コンプライアンス委員会の設置などを行いました。また四半期に1回、海外現地法人からコンプライアンスの状況について報告を求め、コンプライアンスの取り組み状況を定期的にモニタリングすることとしました。

2013年度は、海外現地法人を対象に、eラーニングを実施し、教育プログラムをさらに充実させるとともに、「贈収賄防止ガイドライン」を制定しました。また国内外で競争法違反によるリスクが高まっていることから、営業・技術部門の従業員を対象に、競争法の遵守をテーマとした教育などを実施しました。

2014年度は、「贈収賄防止ガイドライン」の周知を図るべく、海外現地法人向けの説明会を開催する計画です。



「贈収賄防止ガイドライン」は、英語、中国語、日本語の3か国語に対応

## 内部通報制度

2006年4月から、国内グループ会社の従業員向けに、内部通報・相談を受け付ける「ヘルプライン\*」を設置しています。ヘルプラインに寄せられる通報・相談は、主として、社内体制の不備や社内のモラルに関するもので、年に数件程度の件数で推移しており、問題の早期発見・解決に役立っています。

2013年8月から、海外現地法人にもヘルプライン「Fujitsu-Alert」を導入し、運用を開始しました。「Fujitsu-Alert」への通報が現地だけでなく、本社にも届くしくみを整備するなど、グループ内での連携を強化しながら内部通報制度の運用を図っています。

\*2014年6月から「コンプライアンスライン」に改称

## 情報セキュリティ

2005年12月に「情報管理ガイドライン」を定め、各種規定の整備や自主監査の実施、富士通株式会社による情報セキュリティ監査の受審、新入社員を対象としたeラーニングによる情報セキュリティ教育を実施するなど、情報セキュリティの強化に努めています。

このような取り組みの一環として、2013年1月には「技術系エリアの情報管理要領」を新たに制定し、技術系エリアでの写真撮影・カメラ持込に関する禁止措置の厳格化や、情報セキュリティ管理責任者・推進担当者の設定、年2回の自主点検などについて詳細を規定しました。

## 知的財産の保護・活用強化

富士通テンでは、「知的財産権取扱規程」にのっとり、他者の権利を尊重すると同時に、他者による当社の権利侵害に対しては毅然とした態度で臨んでいます。また、重点開発テーマを中心に、イノベーションの視点で発明をとらえ、強い特許として出願する活動を進めています。

2013年度には、強い特許を創出する基盤のさらなる強化を目的として、若手技術者を対象とした新たな知財系研修を合計10回開催し、延べ280名が受講しました。

このような活動を2014年度も継続し、当社の技術を支える強い特許の抽出ならびに獲得をめざします。



若手技術者を対象とした研修の様子

# 「職場力」を高め、ともに成長する

一人一人が誇りをもって働き、能力を発揮し、達成の喜びを分かち合える職場づくりと、安全かつ健康的な労働環境の維持・向上に努めています。

## 従業員の子どもたち 延べ440名が参加



2014年度は本社、トヨタ事業所、中津川テクノセンター、富士通テンマニュファクチャリング（中津川工場・小山工場）で、「子ども参観日」を開催。2006年にスタートしたこのイベントにはこれまで延べ440名の子どもたちが参加しています。

Voice P.24

### 雇用状況

富士通テングループの連結従業員数は次の通りです。

■ 2013年度 連結従業員数（2014年3月末時点）

単位：名

	日本	アジア・オセアニア	米州	欧州	合計
従業員	4,625	4,170	933	459	10,187

### 人権の尊重

階層別教育や昇級時の研修に人権関連のプログラムを組み入れるとともに、毎年12月の人権週間には、ポスター掲示などを通じて従業員の意識を啓発しています。さらに従来、本社のみには設けていた「人権相談窓口」を2010年度に国内の全拠点に拡げ、原則として相談には現地に対応する体制をとっています。

今後は、管理職を対象とした勉強会なども検討し、ハラスメントのない職場づくりに取り組みます。

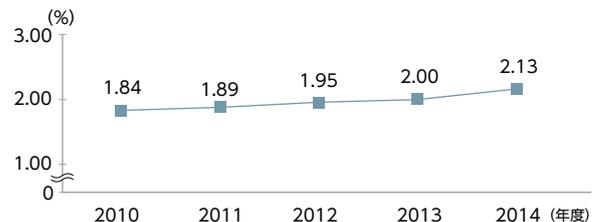
### 多様性の受容

当社は、社員一人一人が持つ多様性を受け入れ、活かすことで、「個人の成長」「やりがいの向上」「企業の競争力強化・成長」につながると考えています。このような考え方のもと、2010年度に設置された「ダイバーシティ推進室」が中心となって、主として、多様性を尊重するような企業風土の醸成と、個人の自立・活躍の支援に取り組んでいます。

### 障がい者雇用

当社は、就職フェアへの参加などを通じて、障がい者の採用に取り組むとともに、働きやすい職域を開拓するなど、障がい者の受け入れに積極的に取り組んでいます。2014年6月1日時点で46名の障がい者を雇用し、雇用率は法定雇用率をクリアする2.13%となっています。

■ 障がい者雇用率の推移（単独）



### ワーク・ライフ・バランスの推進

従業員のライフスタイルやライフステージに応じた多様な働き方を支援する施策の一環として、育児・介護休職制度、子ども・家族の看護休暇などを整備しています。



次世代育成対策推進法に基づく行動計画の活動実績に対し、厚生労働省から「子育てサポート企業」として認定を受けています。（認定マーク：くるみん）

■ 2013年度 各種制度利用者数（単独）

単位：名

	男性	女性	合計
育児休職	2	50	52
介護休職	1	2	3
配偶者出産休暇	103	—	103
子ども・家族看護休暇	36	78	114
介護休暇	12	3	15

## 人材教育

「自己の能力は自ら開発する」という考え方に立ち、各種の教育プログラムを実施しています。

2009年度には従業員が自発的に受講する「テナアカデミー」を開設し、「専門」「経営・マネジメント」「グローバル」などの分野で、集合研修やeラーニング講座を展開。中でも技術教育においては、専門分野や興味に応じて選べるよう、100講座以上のeラーニングプログラムを用意しています。

また「職場若手育成制度」を設け、入社3年目までの若手社員を職場ぐるみで育てる風土の醸成に努めています。

さらに、グローバル人材を育成するために、2013年度から幹部候補選抜の条件としてTOEICを追加。2014年4月には、新入社員を対象として、異文化への適応力などを養う「グローバルコンピテンシ教育」を実施しました。

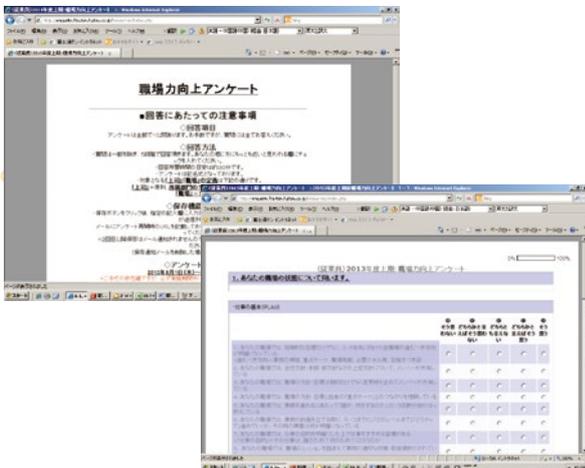


テナアカデミー「ファシリテーション研修」の様子

## 職場力向上アンケート

富士通テでは、2007年度から「職場力向上アンケート」を実施しています。「職場力」を「メンバー一人一人の能力を最大限に引き出して、チームとしての成果を生み出す力」と定義して、職場および個人の状態、マネジメントについて150項目にわたる調査により、当社および職場ごとの強み、弱みを把握しています。この調査の結果、高い職場力をもつ職場の紹介など、各職場へのフォローも行っていきます。

2009年度からは、中間期でのチェックと振り返りを行うため、「職場力向上アンケート」を年2回実施しています。



## 安全衛生マネジメント

富士通テグループは、安全衛生憲章に示した「従業員の安全と健康の確保が経営の基盤であること」という基本方針のもと、「労働災害の未然防止」に重点を置いた取り組みを推進するため、安全衛生マネジメントシステムの構築・運用に取り組んできました。そして、2012年8月、国際規格であるOHSAS18001と環境マネジメントシステムISO14001とのグローバル複合認証を、本社を中心とした5か国7社8拠点\*を対象範囲として取得しました。以来、環境分野において既に定着している「グループでPDCAを回すしくみ」との複合化を図ることで、そのノウハウを活用し、マニュアルや帳票などの共通化を進め、効率的なマネジメントをグループ全体で推進しています。

2014年度は、富士通テテクノセプタが、複合認証を取得する予定です。また富士通テスペインにおいても安全衛生システムの確立を図り、2015年度以降、複合認証の対象範囲とする計画です。

\* 本社拠点、富士通テマニファクチャリング 中津川工場・小山工場、FTCN、FTEW、FTCP、FTTL、FTdM

### 富士通テグループ安全衛生憲章

#### 基本理念

富士通テグループは、インフォテインメント機器、自動車用電子機器の関連企業として、従業員の安全と健康の確保が経営の基盤であることを認識し、人間尊重と安全第一に徹し、安全で快適な職場づくり、心身の健康づくりを積極的に推進します。

#### 基本方針

- (1) 労働安全衛生関係法令、受け入れを決めたその他の要求事項ならびに社内ですら定めた安全衛生に関する諸規定を遵守します。
- (2) 労働災害の未然防止を原則として、OHSAS18001に基づく労働安全衛生マネジメントシステムを確立し、維持・向上を図るとともに、パフォーマンスの継続的改善に努めます。

#### 行動指針

労働安全衛生の重点活動として以下の取り組みを行います。

- (1) リスクアセスメントを通じて危険源の最小化を図り、労働安全衛生に関わる事故・労働災害の未然防止に努めます。
- (2) 職場環境の改善を行うとともに、従業員の健康保持増進に努めます。
- (3) 全従業員に方針を周知し、教育・啓蒙により自覚を促し全員参加で労働安全衛生活動を推進します。

## 労働災害の防止に向けた リスクアセスメント

職場の中の労働災害リスクに対して、職場ごとの調査を通じて危険源を抽出し、評価の上、適切な対策を実施するリスクアセスメント活動を実施しています。

2013年度は、本社や国内生産拠点を中心に合計5,170件のリスクを抽出し、対策を実施してきました。特に職場内に潜むリスクの抽出レベルの向上を図るために、各職場の「リスクアセスメント実施者」を対象に教育を行いました。また、各職場におけるリスクの抽出モレを防ぐために、これまでのリスク抽出の経験をもとに、リスクの気付きになるツールを提供しました。その結果、2014年7月現在、リスクの抽出数は前年度比1.6倍の8,353件となっています。

災害はリスクアセスメントの対象として抽出されなかった危険源で発生する傾向にあるため、全ての作業からリスクを網羅的に抽出できるよう、今後も取り組んでいく予定です。

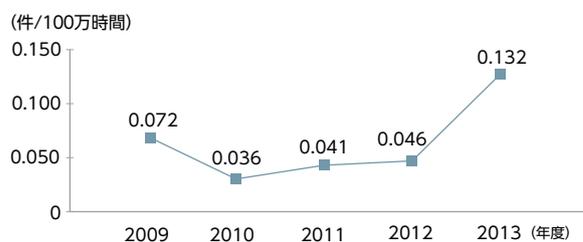
## 労働災害発生状況

当社グループにおける労働災害の発生件数は、安全衛生マネジメントシステムを導入する前の2008年度から減少傾向にありましたが、2013年度は休業災害3件、不休業災害13件が発生し、前年度の件数(休業1件、不休業10件)よりも増加しました。

特に海外生産拠点における非定常時作業時に、作業ルールを十分に把握し、遵守できなかったなどの原因による事故が増加しました。

今後の対策として、リスクアセスメントはもちろんのこと、各生産拠点において、管理監督者による安全作業点検を実施し、災害の芽を摘み取っていきます。

■ 労働発生頻度(連結)(休業1日以上)の度数率



## 心と体の健康支援

定期健康診断や、従業員を対象としたセミナーの開催などを通じて、従業員の健康管理や、生活習慣病の予防に努めています。メンタルヘルス対策として、産業医や産業カウンセラーが従業員の心のケアにあたり、特に大きなストレスを抱える従業員に対しては、定期的なストレス診断やカウンセリングなど、フォローを実施しています。



ヘルスアップセミナーの様子

### Voice 従業員の声



経営企画室 藤本 亮誠

以前から、子どもに「会社へ行ってみよう」と言われていたこともあって、「子ども参観日」に参加しました。

最初のうちこそ、照れ臭そうな様子を見せていたわが子。でも、本音は見るもの、触るものすべてに興味津々。イベントへの参加を通じて、私の仕事環境や仕事内容を体感することができたようです。働くことの

大変さも理解できたでしょうし、今後、子ども自身が将来を考える上での貴重な財産になったと思います。

私自身、参観日以降、子どもから仕事への誇りの言葉をかけてもらう機会が増えました。そういった意味でも有意義なイベントでした。

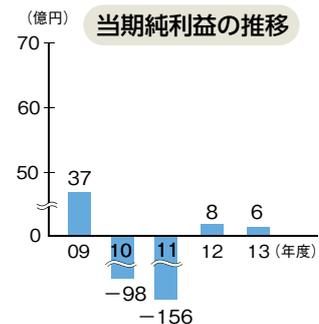
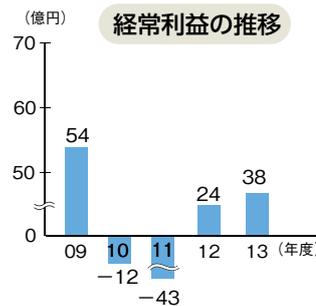
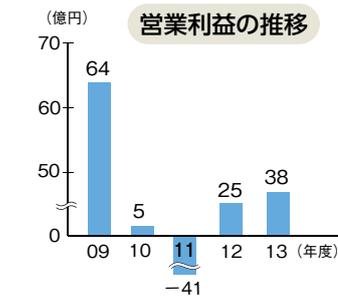
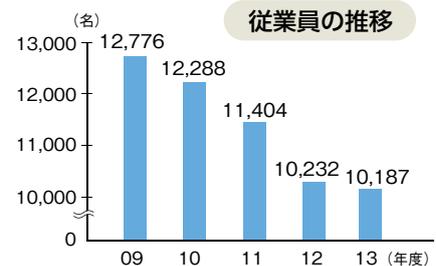
## ● 会社概要

<b>社名</b>	富士通テン株式会社	<b>資本金</b>	53億円(2014年3月31日現在)
<b>所在地</b>	本社 〒652-8510 神戸市兵庫区御所通1-2-28 TEL 078-671-5081	<b>株主</b>	富士通株式会社 トヨタ自動車株式会社 株式会社デンソー
<b>代表者</b>	代表取締役会長 重松 崇 代表取締役社長 山中 明	<b>営業品目</b>	インフォテインメント機器 ・カーオーディオ、カーナビゲーション機器 ・ホームオーディオ機器 ・移動通信機器 自動車用電子機器
<b>設立</b>	1972年10月25日		

## ● 社名の由来

社名「富士通テン」の「テン」は、最高・至上を意味する「天」のことです。中国古典の「中庸」に「誠は天の道なり。これを誠にするは人の道なり。」という一節があり、「誠」を企業経営の基本理念として、常に「誠」を大切にしています。前身の「神戸工業」「川西機械製作所」以来「天」「テン」「TEN」が商標として使われました。

## ● 財務報告(連結)



## ● 事業所一覧 販売 / 生産 / 研究・開発 / 物流・その他

WEB 事業所一覧

\*印の拠点は本報告書の報告範囲に含まれません。

### ■ 国内拠点

富士通テン株式会社  
富士通テンマニファクチャリング株式会社  
富士通テンテクノセプタ株式会社

富士通テン販売株式会社  
富士通テンリサーチ株式会社  
富士通テンスタッフ株式会社

富士通テンテクノロジー株式会社  
富士通テンサービス株式会社

### ■ 海外拠点

#### アジア/オセアニア

オーストラリア	FUJITSU TEN (AUSTRALIA) PTY. LTD. (FTAL)
フィリピン	FUJITSU TEN CORPORATION OF THE PHILIPPINES (FTCP) FUJITSU TEN SOLUTIONS PHILIPPINES, INC. (FTSP)
タイ	FUJITSU TEN (THAILAND) COMPANY LIMITED (FTTL)
シンガポール	FUJITSU TEN (SINGAPORE) PTE. LTD. (FTSL)
インド	FUJITSU TEN MINDA INDIA PVT. LTD. (FTMI)* MINDA F-TEN PVT. LTD. (MFTL)*
インドネシア	PT. FUJITSU TEN MANUFACTURING INDONESIA (FTMID)* PT. FUJITSU TEN AVE INDONESIA (FTAI)*
韓国	FUJITSU TEN KOREA LIMITED (FTKL)
中国	富士通天(中国)投資有限公司 (FTC)* 天津富士通天電子有限公司 富士通天電子(無錫)有限公司 (FTEW) 富士通天(天津)精密電子有限公司* 富士通天国際貿易(天津)有限公司 (FTTT) 富士通天研究開発(天津)有限公司 (FTRT)

#### ヨーロッパ

スペイン	FUJITSU TEN ESPAÑA, S. A. (FTESA)
ドイツ	FUJITSU TEN (EUROPE) GmbH (FTEG)

#### 米州

アメリカ	FUJITSU TEN CORP. OF AMERICA (FTCA) TEN TECHNOSEPTA USA, INC. (TTUI)*
カナダ	FUJITSU TEN CANADA INC. (FTCI)
メキシコ	FUJITSU TEN de MEXICO, S.A. de C.V. (FTdM)
ブラジル	FUJITSU TEN DO BRASIL LTDA. (FTBL)*

- 1920 (大正9)年  
川西機械製作所創立
- 1949 (昭和24)年  
神戸工業 (株) 設立
- 1967 (昭和42)年  
テンオンキョー (株) 設立  
(現富士通テンマニュファク  
チュアリング (株) 小山工場)
- 1968 (昭和43)年  
神戸工業 (株) と富士通 (株)  
が合併、ラジオ部門は  
富士通 (株) 神戸工業部の  
所属となる
- 1972 (昭和47)年  
富士通 (株) からラジオ部門  
が分離・独立、  
富士通テン (株) 設立  
(資本金5億5千万円)
- 1973 (昭和48)年  
資本金を10億円に増資  
トヨタ自動車工業 (株)、  
日本電装 (株) の資本参加を  
得る
- 1975 (昭和50)年  
中津川テン (株) 設立  
(現富士通テンマニュファク  
チュアリング (株) 中津川工場)
- 1979 (昭和54)年  
資本金を13億円に増資
- 1984 (昭和59)年  
本社工場内にモートロニク  
ス棟建設
- 1985 (昭和60)年  
本社工場内に製造棟建設  
資本金を33億円に増資
- 1987 (昭和62)年  
中津川テン (株) を吸収合併、  
中津川工場としてスタート  
FUJITSU TEN CORP. OF  
AMERICA ラッシュビル工場  
完成
- 1989 (平成元年)  
本社工場内に技術棟建設  
シンボルマークを  
FUJITSU TEN に一新
- 1990 (平成2)年  
本社工場内に  
「音響開発センター」開設

~1961

1971

1981

- 1955 (昭和30)年  
トヨタ「クラウン」用カーラ  
ジオ納入開始



市販用カーラジオ製造開始

- 1956 (昭和31)年  
タクシー用無線機の  
製造開始

- 1959 (昭和34)年  
日本初のオールトランス  
スタラジオ開発

- 1967 (昭和42)年  
日本初、8トラック方式カー  
ステレオ発売



- 1973 (昭和48)年  
安全ベルト制御および排出  
ガス制御用電子機器を  
トヨタ自動車工業 (株) に納  
入開始

- 1977 (昭和52)年  
コンポーネントカーステレ  
オ発売



- 1978 (昭和53)年  
クルーズコントロール用  
電子機器を  
トヨタ自動車工業 (株) に納入  
開始

- 1979 (昭和54)年  
電子同調ラジオおよび録音  
機能付カーステレオをトヨタ  
自動車工業 (株) に納入開始

- 1980 (昭和55)年  
コンポーネントカーステレ  
オ「バイヨ」発売

- 1981 (昭和56)年  
電子制御自動変速装置用  
電子機器を  
アイシン精機 (株) に  
納入開始

- 1982 (昭和57)年  
MCA無線装置発売  
車高制御装置をアイシン精  
機 (株) と共同開発、同社に  
納入開始

- 1983 (昭和58)年  
パーソナル無線機  
「パソコールバイヨ」発売  
ディーゼル車用プリヒート  
タイマをトヨタ自動車 (株)  
に納入開始

- 世界初、車載用 CDプレー  
ヤをトヨタ自動車 (株) と共  
同開発



- 電子制御燃料噴射装置 (EFI)  
のコントロールユニットを  
トヨタ自動車 (株) に納入開始

- 1984 (昭和59)年  
盗難防止 (セキュリティ) 機  
器をトヨタ自動車 (株) に納  
入開始

- 1985 (昭和60)年  
車両一体音響システム  
「ライブサウンドシステム」  
をトヨタ自動車 (株) と共同  
開発、同社に納入開始

- 1987 (昭和62)年  
バスロケーションシステム  
発売

- 1988 (昭和63)年  
車載用 DATプレーヤ発売  
米国市販市場向けカーオー  
ディオの新シリーズ「ECLIPSE」  
発売

- 1989 (平成元年)  
世界初の車載用 DSPサウン  
ドプロセッサを開発、  
カーオーディオの新シリーズ  
「αシリーズ」発売



- 1991(平成3)年  
中津川工場内に製造棟増設  
FUJITSU TEN CORPORATION  
OF THE PHILIPPINES工場完成  
資本金53億円に増資
- 1994(平成6)年  
富士通テン社会貢献基金設立
- 1995(平成7)年  
阪神・淡路大震災により  
本社工場4日間操業停止
- 1996(平成8)年  
欧州においてカーオーディオの生産開始  
品質保証システムの国際規格 ISO9001:1994の認証を取得
- 1997(平成9)年  
FUJITSU TEN de MEXICO,  
S.A.de C.V.工場完成  
中津川テクノセンター開設  
天津富士通天電子有限公司  
工場完成  
環境管理システムの国際規格 ISO14001の認証を取得
- 1998(平成10)年  
米国ビッグ3(GM、フォード、  
ダイムラークライスラー)  
が制定している品質管理基準  
QS-9000の認証を取得  
カーオーディオ業界で初めて、  
部品調達に電子かんぱんの  
運用を開始
- 1999(平成11)年  
神戸物流センター開設
- 2000(平成12)年  
FUJITSU TEN (THAILAND)  
COMPANY LIMITED工場完成  
環境会計導入  
中津川テクノセンターが国際規格  
ISO/IEC17025に基づく  
EMCサイト認可取得
- 2002(平成14)年  
鉛フリーはんだを使用した  
カーAV製品を市場投入  
カーエレクトロニクスメーカー  
で国内初、モーターロニクス本部  
がCMMLレベル3評価を達成
- 2003(平成15)年  
豊田物流センター開設  
国内全生産拠点でゼロエ  
ミッション達成
- 2004(平成16)年  
富士通天電子(無錫)有限公司  
工場完成
- 2005(平成17)年  
品質保証システムの国際規格  
ISO/TS16949:2002の認証  
を取得
- 2007(平成19)年  
国内全グループ会社で環境  
管理システムの国際規格  
ISO14001の統合認証を取得  
ESPAÑA,S.A.を子会社化、  
FUJITSU MANUFACTURING  
ESPAÑA,S.A.として新たに  
スタート  
カーAV製品の生産累計1億  
台達成
- 2008(平成20)年  
富士通天電子(無錫)有限公  
司工場増築
- 2010(平成22)年  
(株)テクノセプタを子会社化、  
富士通テクノセプタ(株)  
に社名変更
- 2011(平成23)年  
東日本大震災の影響により、  
国内工場において操業一部停  
止、海外工場においても国内  
向け製品の生産一部停止  
[東京クリエイティブスクエア]  
開設
- 2012(平成24)年  
国内3つの販売子会社を統合、  
富士通テン販売(株)設立  
中国ビジネス統括会社 富士通  
天(中国)投資有限公司 設立  
インドに合併会社 FUJITSU TEN  
MINDA INDIA PRIVATE LIMITED、  
および MINDA F-TEN PRIVATE  
LIMITED 設立
- 2013(平成25)年  
インドネシアに PT.  
FUJITSU TEN AVE INDONESIA  
設立  
川崎センサ開発センター開設
- 2014(平成26)年  
中津川工場と(株)栃木富士通  
テンを統合、富士通テンマニ  
ファクチュアリング(株)を設立

1991

- 1991(平成3)年  
最高級カーオーディオ  
[Sound Monitor] 発売
- 1992(平成4)年  
アンチロックブレーキシ  
ステム(ABS)のコントロール  
ユニットをトヨタ自動車(株)  
に納入開始
- 1993(平成5)年  
車両運行管理システムを  
(株)朝日セキュリティシ  
ステムズと共同開発、同社に  
納入開始
- 1994(平成6)年  
世界初、車載用マルチメディア  
プレーヤー  
[CAR MARTY] 発売  

- 1995(平成7)年  
国内市販市場向けにカー  
オーディオの新シリーズ  
[ECLIPSE]発売
- 1996(平成8)年  
日本初、ディーゼル黒煙浄  
化制御 ECUを(株)豊田自動  
織機製作所と共同開発、同  
社へ納入
- 1997(平成9)年  
世界初、1DINサイズ6枚  
CDチェンジャーをトヨタ自  
動車(株)に納入開始
- 1998(平成10)年  
カーナビゲーションとオー  
ディオビジュアルを 2DIN  
サイズに集約した「AVN」  
発売  

- 1999(平成11)年  
世界初の、車載用マルチメディア  
プレーヤー  
[CAR MARTY] 発売  
車間距離警報装置  
[レーザーアラーム] 発売
- 2000(平成12)年  
DVDナビゲーションシ  
ステム発売  
自動車制御用ECU開発  
ツール、リアルタイムシミュ  
レーター「CRAMAS」開発
- 2001(平成13)年  
世界初の、車載用ディスプレイの直射日光補正機能を搭載したLSI「Vivid View Processor™3」を開発  
業界初、日・英・中・韓4か  
国語対応地図の文字表示と  
音声案内が可能なECLIPSE  
法人向けカーナビゲーション  
発売
- 2002(平成14)年  
世界最大の「9型大画面」&  
市販初「クルマで DS」対応  
ECLIPSEカーナビ2012年  
夏モデル発売
- 2003(平成15)年  
国内市販初、「Wi-Fi®」  
接続機能搭載 ECLIPSEカー  
ナビ 2013年秋モデル発売  
自然な対話で目的地検索が  
できる対話型エージェント  
アプリ「CarafL(カラフル)」  
リリース

2001

- 2001(平成13)年  
タイムドメイン理論を用いた  
ホーム用卵型スピーカーと  
パワーアンプ  
[ECLIPSE TD] 発売
- 2002(平成14)年  
世界初、20GBハードディス  
クを2基搭載したカーナビ  
ゲーションシステム発売
- 2003(平成15)年  
「7.6GHz帯ミリ波レー  
ダー」を本田技研工業(株)  
に納入開始  
世界初、タクシー専用デジ  
タル無線システムを開発・  
納入開始
- 2004(平成16)年  
世界初のTV/GPS一体型  
フィルムアンテナ開発
- 2005(平成17)年  
ドライブレコーダを発売  
世界初、「DUAL AVN」と  
「1DIN AVN」を発売  
地上デジタルTVチューナを  
発売
- 2006(平成18)年  
世界初、車の天井材を振動さ  
せて音を出す「ヘッドライ  
ナスピーカシステム」を  
トヨタ紡織(株)と共同開発  
トヨタ自動車(株)が開発した  
世界初の後方プリクラッシュ  
セーフティシステム向けに  
7.6GHz帯ミリ波レーダーを  
納入
- 2007(平成19)年  
ナビ部着脱型オーディオ一体  
カーナビゲーションを米国・  
欧州・豪州で発売  
インターネットの情報を携帯  
電話でナビに取り込める  
「ケータイリンク AVN」発売  
ハイブリッド車用ECUをト  
ヨタ自動車(株)に納入開始  
カーナビ業界初、地デジ  
チューナ・B-CASスロットを  
本体に内蔵した「AVN」発表
- 2008(平成20)年  
次世代音響空間コントロー  
ルシステム発売、新型クラ  
ウンの「トヨタプレミアムサ  
ウンドシステム」に採用  
メモリーナビゲーション  
「AVN Lite」発表
- 2009(平成21)年  
トヨタ自動車(株)が開発し  
た世界初の前側方プリク  
ラッシュセーフティシステム  
向けに7.6GHz帯ミリ波レー  
ダーを納入
- 2010(平成22)年  
世界初、車両の周囲を様々  
な視点から立体的な俯瞰映  
像で確認できる「マルチア  
ングルビジョン™」をトヨタ自  
動車(株)に納入開始  
ポータルナビゲーション  
「EP001」発売

2011

- 2011(平成23)年  
世界初、車載用ディスプレイの直射日光補正機能を搭載したLSI「Vivid View Processor™3」を開発  
業界初、日・英・中・韓4か  
国語対応地図の文字表示と  
音声案内が可能なECLIPSE  
法人向けカーナビゲーション  
発売
- 2012(平成24)年  
国内市販初、「Wi-Fi®」  
接続機能搭載 ECLIPSEカー  
ナビ 2013年秋モデル発売  
自然な対話で目的地検索が  
できる対話型エージェント  
アプリ「CarafL(カラフル)」  
リリース

## 富士通テングループ「社会・環境報告書2014」を読んで



広島経済大学 経済学部経営学科  
教授 岡田 齋 氏

〔略歴〕

大阪大学工学研究科および神戸大学経営学研究科修了。博士(工学、経営学)。2012年4月より現職。CSR・環境経営、企業不祥事、MFCA(マテリアルフローコスト会計)などを研究。平成21及び22年度経済産業省委託「サプライチェーン省資源化連携促進事業」診断事業評価委員会委員。

富士通テングループは、自動車に関わるICT(情報通信技術)企業として事業活動を通じて社会に果たすべき役割を、「人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、自由で快適なモビリティ社会の実現に貢献します」という事業ビジョンにまとめています。富士通テングループ社会・環境報告書2014には、富士通テングループが「ツナガル」機能でクルマの新しい価値を創造することに注力され、IP無線タクシー配車システムなど、さまざまな製品を世の中に提供されていることが詳しく、かつ、興味深く紹介されています。

また、報告書のトップコミットメントでは、富士通テングループの社会的責任、目指すべき方向性、地球環境問題への取組み、人財尊重の目的と取組みなどのコミットメントと、これらは『誠は天の道なり』という社是につながるという新社長のお考えが、強い決意とともに述べられています。このような社会的責任に関するコミットメントは、昨年までのトップコミットメントと比較するとより強いものになっています。富士通テングループのCSRへの取組みのステップアップとして評価できるものです。

環境パフォーマンス指標については、これまで国内と海外に分かれていた目標値をグローバル目標に統一し、今後はグ

ローバルでの環境負荷低減を強化するという姿勢を打ち出しています。国内外に展開するグローバル企業として、時機を得た対応であると評価できます。

しかしながら、いくつかの課題も指摘できます。

まず、これまでも指摘したように、富士通テングループが目指すCSRの全体像が、未だ明確でないように思います。その原因として、社会が富士通テングループに寄せる期待や意見を把握するプロセス、具体的には社員を含む幅広いステークホルダーの期待や意見を把握するプロセスが見えないことにあります。その結果、富士通テングループが取り組んでいるCSRの課題が、社会の支持を得ているのかどうか判断できないのです。富士通テングループの目指すべき社会像と、事業を通じてこれを実現するという具体的な社会的責任を明らかにし、これを遂行するために何をすべきかを考えることがCSRの原点です。そのためには、ステークホルダーとの双方向の対話のプロセスをCSRマネジメントに組み込み、富士通テングループに対する社会のニーズを把握することが必要です。

次に、環境報告以外の社会性側面の活動についても、活動のパフォーマンス評価のための指標を設けることを期待します。指標化は、必ずしも定量性にこだわる必要はなく定性的な指標でも良いでしょう。指標を設定し、CSRマネジメントとして、PDCAサイクルを回すことが望まれます。

このような課題に真摯に向き合い、社会のニーズにこたえる富士通テングループのCSRマネジメントをより一層ステップアップされることを期待します。

## ご意見をいただいて



富士通テック株式会社  
執行役員

森下 拓

今年も広島経済大学の岡田先生に貴重なご意見をいただきました。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

岡田先生には、社会的責任に関するコミットメントの強化、環境パフォーマンス指標のグローバル目標化につい

て、高く評価していただきました。

ご指摘のあった、富士通テングループに対する社会のニーズの把握や、社会性側面のパフォーマンス評価指標の設定については、顧客からの期待値活動などを通じて従来から取り組んでいますが、今後は、ISO26000を活用した当社グループの取り組みの現状把握・課題抽出を進め、CSR活動のさらなるステップアップを図ってまいります。

また、ステークホルダーとのコミュニケーションの「見える化」を進めてまいります。

私たちは、これからも「誠」を大切に、ステークホルダーの声に真摯に耳を傾けながら、CSR活動に取り組んでまいります。

## 富士通テン株式会社

〒652-8510 神戸市兵庫区御所通1-2-28 TEL 078-671-5081

この報告書の内容に関するお問い合わせは

人事総務部 TEL 078-682-2063



富士通グループは、先進的な環境への取り組みが評価され、環境大臣より「エコ・ファースト企業」として認定されました。



「ヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティ」の実現で、低炭素社会へ。富士通グループは気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同しています。